平成 29 年度

愛知県埋蔵文化財センター

年報

2018

公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

目　　次

Ⅰ.平成29年度事業概要 ……1
調査の理由と工程 …… 2
平成29年度調査遺跡位置図 …… 4

Ⅱ.遺跡調査の概要 …… 7
稲沢市　北丹波・東流遺跡（本発掘調査B）……8
瀬戸市　北山窯跡（本発掘調査B）…… 12
清須市　清洲城下町遺跡（本発掘調査B）…… 14
豊田市　牛寺遺跡（本発掘調査A）…… 18
安城市　向田遺跡（本発掘調査A・B）…… 20
設楽町　大畑遺跡（本発掘調査B）…… 26
　　マサノ沢遺跡（本発掘調査B）…… 36
豊橋市　普門寺旧境内（本発掘調査B）…… 46

Ⅲ.刊行報告書抄録 …… 51
第210集　宮下遺跡・下懸遺跡Ⅱ・五反田遺跡・惣作遺跡Ⅲ …… 52

Ⅳ.普及・公開活動の記録 …… 55
平成29年度埋蔵文化財展 …… 56
連続歴史講座…… 58
バックヤードツアーと考古学体験…… 59
ワークショップ「埋文市民大学」…… 60
第６回 考古学セミナー「あいちの考古学2017」の記録 …… 62

Ⅴ.埋蔵文化財センターの活動 …… 65
資料の貸出・提供 …… 66
ホームページ …… 67
地元説明会・遺跡報告会…… 68
報告書作成および発掘調査現場における遺構・遺物の指導 …… 68
その他普及事業 …… 69
平成29年度愛知県埋蔵文化財センター組織一覧 …… 71

Ⅰ. 平成 29 年度事業概要

調査の理由と工程

1. 発掘調査

事業主体		事業名	遺跡名	調査面積（㎡）	調査期間	調査担当
県建設部 都市整備課	一宮 建設事務所	街路改良工事 (都)名古屋岐阜線	北丹波・東流遺跡	490	平成29年5月 ～平成29年6月	蔭山
県建設部 砂防課		緊急急傾斜地崩壊 対策事業	北山窯跡	100	平成29年5月	武部
県建設部 河川課	尾張 建設事務所	総合治水対策 特定河川事業	清洲城下町遺跡	320	平成29年7月 ～平成29年9月	蔭山
国土交通省 中部地方整備局	豊橋 河川事務所	矢作川 河川改修	牛寺遺跡	200	平成29年5月 ～平成29年6月	樋上
県建設部 河川課	知立 建設事務所	中小河川改良事業 (鹿乗川)	向田遺跡	1,524	平成29年10月 ～平成30年1月	樋上
国土交通省 中部地方整備局	設楽ダム 工事事務所	設楽ダム	大畑遺跡	13,950	平成29年5月 ～平成30年1月	鈴木正・鈴木恵 早野・永井邦 松田・永井宏
			マサノ沢遺跡	2,050	平成29年7月 ～平成30年1月	永井宏・鈴木正
県農林水産部 森林保全課	東三河 農林水産事務所	予防治山事業 小規模治山事業	普門寺旧境内	300	平成29年5月 ～平成30年1月	早野

2. 整理・報告書編集

	事業主体		事業名	遺跡名	調査面積(㎡)	調査年度
整理	県建設部 都市整備課	一宮建設事務所	街路改良工事 (都)名古屋岐阜線	北丹波・東流遺跡	490	H.29
	国土交通省 中部地方整備局	設楽ダム 工事事務所	設楽ダム	設楽ダム関連遺跡	16,000	H.29
整理・報告	県企業庁	研究施設 用地開発課	豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業	下山テストコース関連遺跡	115,120	H.21～27
	県建設部 道路建設課	西三河 建設事務所	道路改良工事 西尾幡豆線	岡山南遺跡	6,805	H.27・28
	県建設部 河川課	知立 建設事務所	中小河川改良事業 (鹿乗川)	鹿乗川関連遺跡	10,000	H.26・27
	国土交通省 中部地方整備局	設楽ダム 工事事務所	設楽ダム	西地・東地遺跡	4,560	H.26・28

3. 平成29年度刊行物

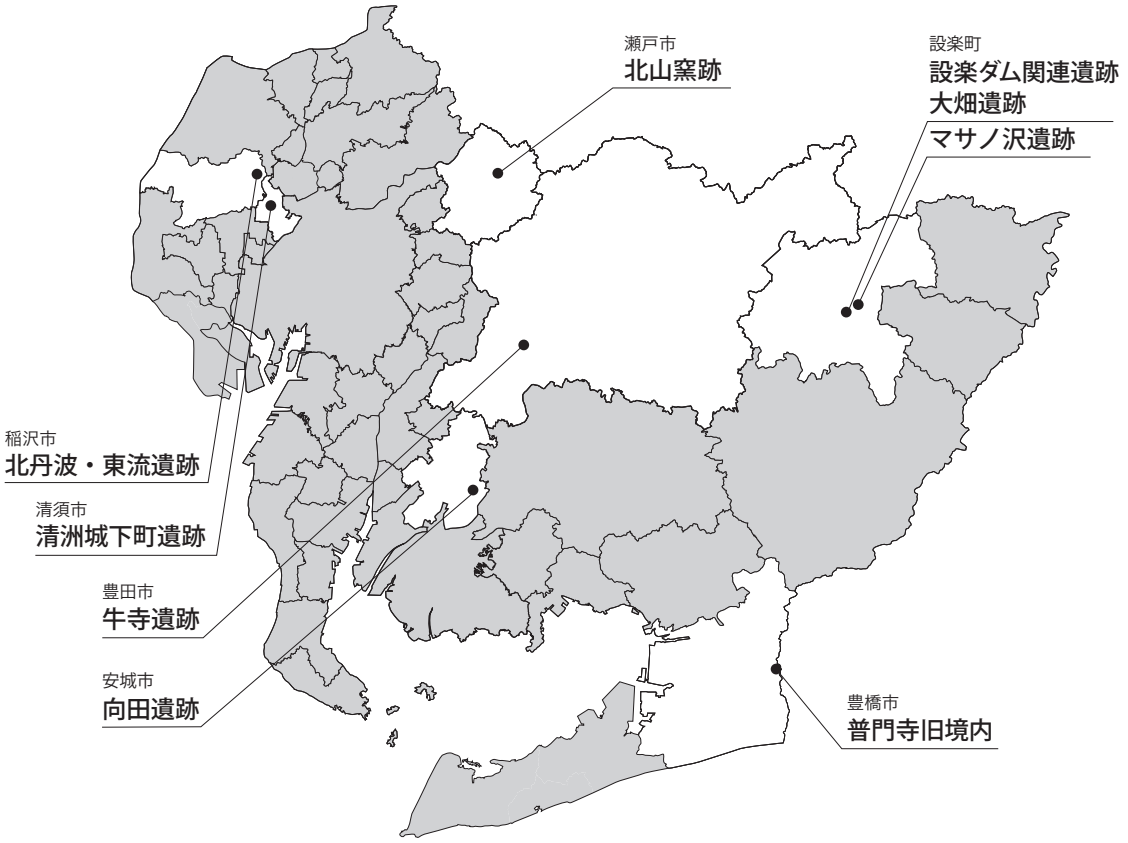
・埋蔵文化財報告書（計1冊）

　第210集　宮下遺跡・下懸遺跡Ⅱ・五反田遺跡・惣作遺跡Ⅲ

・平成 29 年度　愛知県埋蔵文化財センター年報

・研究紀要　第 18 号

平成29年度　調査遺跡位置図





国土地理院 1/2.5 万地形図「高蔵寺・瀬戸・多治見・猿投山」



国土地理院 1/2.5 万地形図「安城・西尾」

※地形図は 50%縮小しています。



国土地理院 1/2.5 万地形図「一宮・清洲」



国土地理院 1/2.5 万地形図「田口」



国土地理院 1/2.5 万地形図「豊橋・二川」

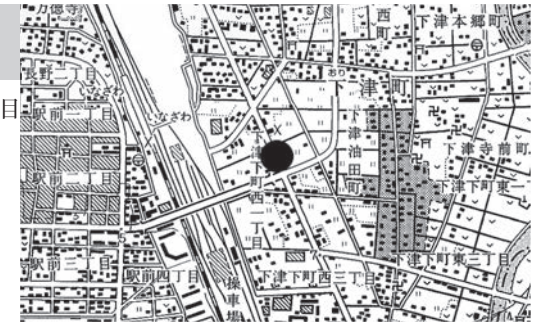


国土地理院 1/2.5 万地形図「豊田南」

※地形図は 50%縮小しています。

II. 遺跡調査の概要

北丹波（きたたんば）・東流遺跡（ひがしながれ）（本発掘調査B）



調査地点（1/2.5万「一宮」）

所在地　稲沢市下津丹下田町・下津森町・下津下町西一丁目
（北緯35度15分6秒 東経136度49分39秒）

調査理由　街路改良工事(都) 名古屋岐阜線

調査期間　平成29年5月～平成29年6月

調査面積　490㎡

担当者　酒井俊彦・蔭山誠一

調査の経過　街路改良工事(都) 名古屋岐阜線にともなう事前調査として、愛知県建設部都市整備課一宮建設事務所から愛知県教育委員会を通じて、愛知県埋蔵文化財センターが委託を受け、県道名古屋岐阜線の下津交差点から北側の道路中央部分490㎡を調査した。県道名古屋岐阜線の本事業にともなう拡幅部分は、平成24年度に2,320㎡、平成25年度に1,000㎡、平成27年度に390㎡を分けて調査している。本年度の調査では、調査区の北側を17A区、南側を17B区に分けて調査した。

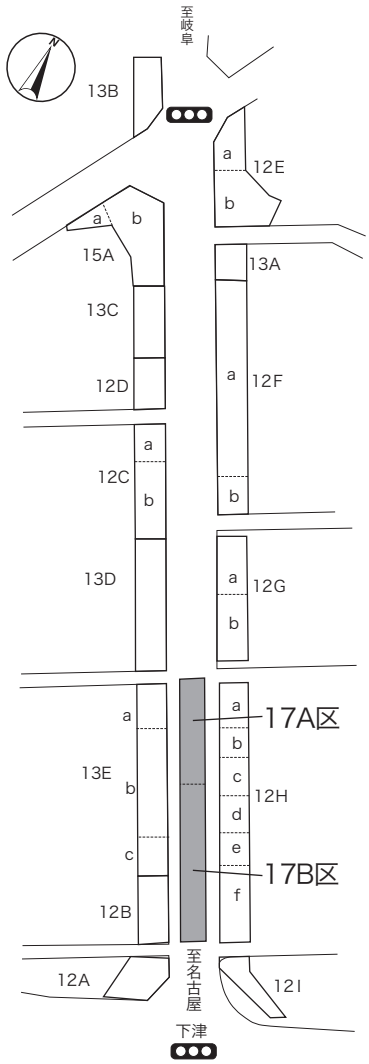
立地と環境　遺跡はJR東海東海道線稲沢駅から約350mの地点にあり、現在でも県道名古屋岐阜線が遺跡の中央を通過している交通の要地にある。その立地は青木川の右岸にある水田と宅地・畑地が混在する微高地の縁辺部分にあたる。

調査の概要　調査区の現況は、県道の道路敷きの下となり、県道道路面の標高が5.5m前後、その下に近代以後の水田耕作土層が2層あり、上層の道路敷設以前の水田面標高が5.0m前後、その下に整地層を挟んで、下層の水田面標高が4.3m前後にあり、下層の水田耕作土層までは、バックホウにより除去した。遺構検出は2面実施し、1面は標高4.2m前後、2面は標高4.1m前後であった。

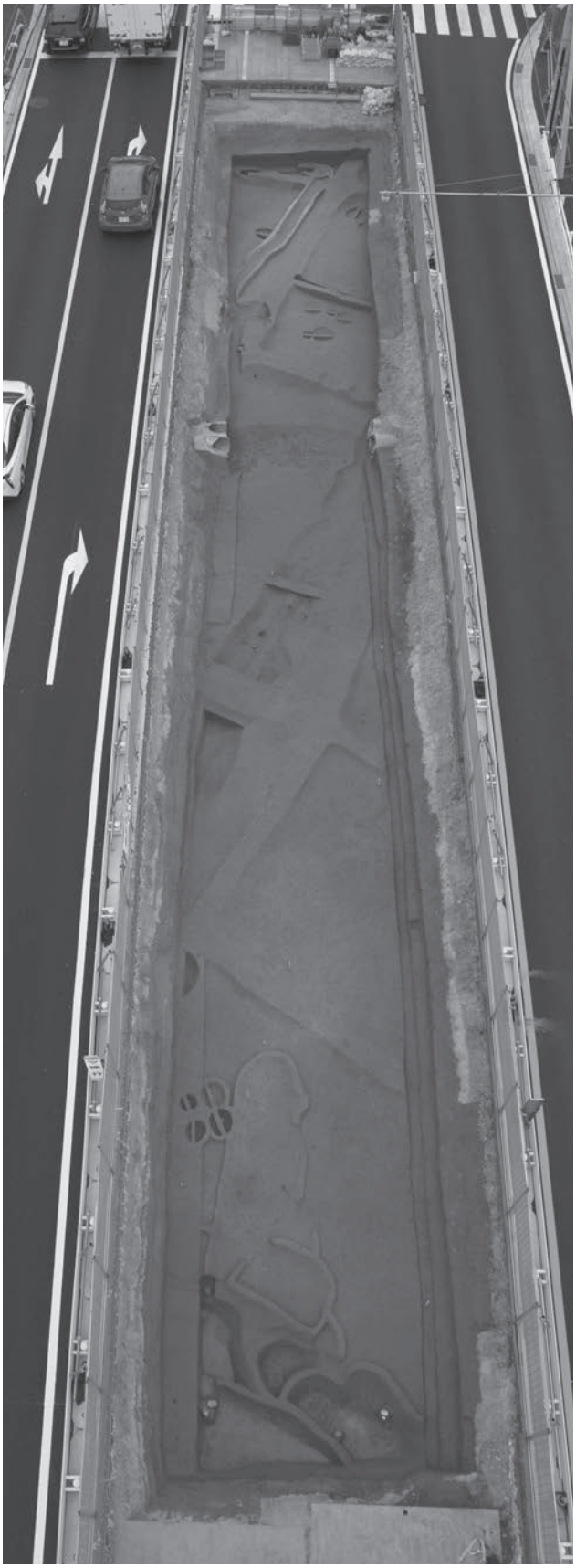
確認できた遺構は飛鳥時代から奈良時代にかけての竪穴建物22棟、土坑85基、溝2条、自然流路1条、鎌倉時代から室町時代の溝16条、戦国時代～江戸時代にかけての水田遺構15筆、溝1条、土坑15基がある。

1面の遺構は、17A区では調査区の北端部において江戸時代後期以後の水田遺構があり、調査区の南側にて戦国時代以後の条里型水田遺構を6筆確認した。17B区では調査区全体に戦国時代以後の条里型水田遺構9筆、溝1条があり、調査区北端部に17A区に続く中世後期の溝6条、中央部分に南北方向の溝1条を確認できた。

2面の遺構は、17A区では調査区の南側において17B区の北端で1面において確認した溝から続く南北方位の中世以後の溝7条、その北に同時期の溝8条、17A



調査区位置図（1：2,000）



17B区1面全景（北西より）



17A区2面全景（北西より）

区北端部で古代の自然流路と思われる落ち込み1条とその南側に竪穴建物4棟、土坑20基、17A区と17B区の境部分に東西方向の古代の溝1条、この溝の北に1棟と南に17棟の竪穴建物を確認した。

古代の遺構からは、6世紀末から8世紀後半にかけての須恵器と土師器などが出土し、東西方向の溝の時期を挟んで竪穴建物や土坑などが連綿と営まれたものと考えられた。17B区の北端部にある自然流路は、当初上面に炭化物が多くみられ、その範囲を竪穴建物と認識して掘削を行ったが、北の調査区外側に傾斜する自然流路であることが確認できた。その埋没過程において複数の柱穴となる土坑がみられる。17B区の中央東壁にかかる位置に、動物骨が出土する土坑が1基ある。

中世の溝は方形区画を形成していた区画溝と思われ、出土遺物には鎌倉時代の山茶碗や小皿が出土するが、室町時代以後の灰釉縁釉小皿などが少数出土することから、時期は室町時代にかかるものと思われる。

1面にて検出された南北方位の条里型水田遺構からは、古代の須恵器・土師器、中世の山茶碗・小皿・伊勢型鍋、戦国時代の大窯様式の施釉陶器などが出土しており、戦国時代から江戸時代にかけてのものと考えられる。水田遺構は17A区から17B区北側では深さ5cm以内と浅く、17B区南側では深さ20cm～30cm前後と深くなる。

ま と め　今回の調査成果から、飛鳥時代から奈良時代にかけて、鎌倉時代から室町時代にかけて、戦国時代から江戸時代にかけての大きく3時期の遺構が確認できた。今後は平成24年度から平成27年度に実施した調査成果と合わせ、全体の遺構変遷や時期毎の遺跡の性格などの究明が望まれる。（陰山誠一）



17A区2面全景（北西より）



17A区023SI・026SX・024SD（南より）



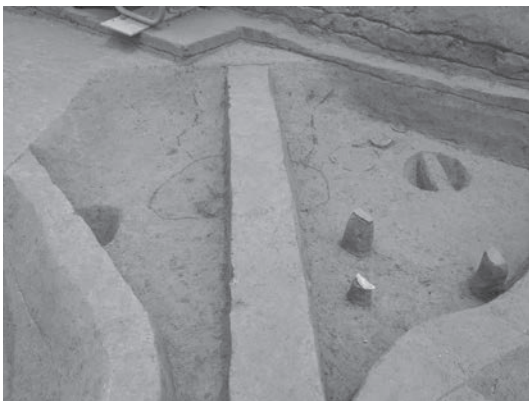
17A区031SI遺物出土状況（東より）



17A区037SK遺物出土状況（南東より）



17B区062SK獣骨出土状況（西より）



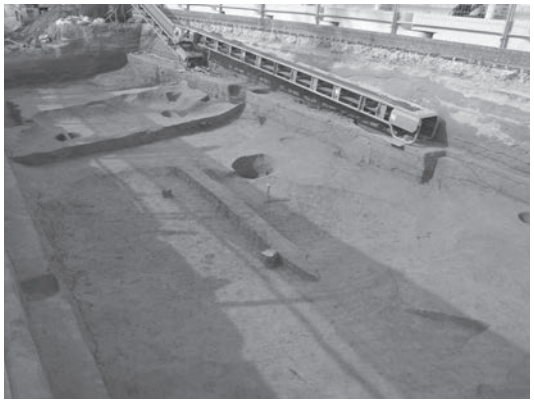
17B区135SL（068SIカマド）検出状況（南西より）



17B区066SI・067SK・068SI（北東より）



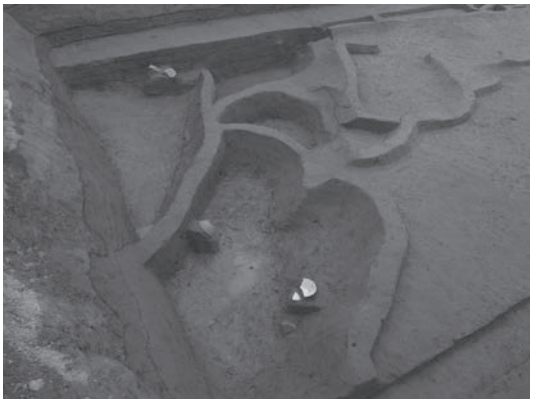
17B区126SK礎板出土状況（北より）



17B区130SI（南西より）



17B区137SL（037SIカマド）土層断面（北東より）



17B区034SD～037SD（西より）



17B区129SD遺物出土状況（西より）

北山窯跡（本発掘調査B）

所在地　瀬戸市落合町地内
（北緯35度15分8秒 東経137度7分36秒）

調査理由　緊急急傾斜地崩壊対策事業

調査期間　平成29年5月

調査面積　100㎡

担当者　酒井俊彦・武部真木



調査地点（1/2.5万「多治見・猿投山」）

調査の経過　調査は緊急急傾斜地崩壊対策事業に伴い、愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じて委託を受けて実施した。これまでに北山窯跡の主要部分と勘助窯跡については（公財）瀬戸市文化振興財団によって平成27年度に発掘調査および工事中の立会調査が行われている（市調査）。今回は北山窯跡北縁の隣接地100㎡について発掘調査を行った。

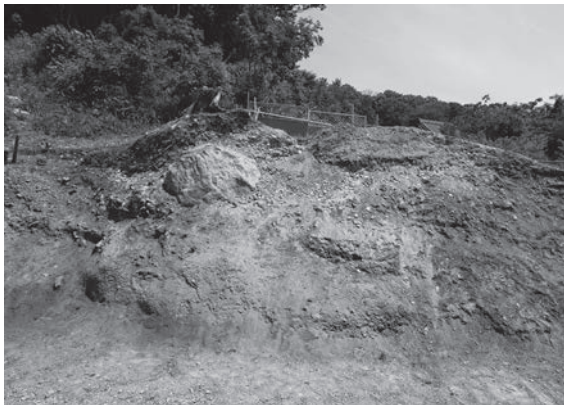
立地と環境　遺跡の立地する丘陵地は水野川と支流の鳥原川との合流点付近、水野川右岸の北部山地にあたり、南東側にかけて広がる品野盆地を望むこの山稜付近には戦国期の城館跡（落合城跡）の存在が推定されている。調査地点の標高は171mであり、一般国道248号北西側に近接して周辺は住宅地となっている。すぐ背後の標高174～176mの南向き斜面に勘助窯跡があり、市調査により窯体2基（1号窯、2号窯）の位置と灰原が確認されている。出土遺物は大窯第１段階後半から第３段階に属するものがあり、操業期間は16世紀初頭から中葉あたりに位置づけられる。また、勘助窯跡の灰原等を造成して北山窯が築かれたことも明らかとなった。

調査の概要　北山窯跡は調査以前に、位置と近代から戦前まで操業した連房式登窯であることが知られていた。市調査により窯体では焼成室の一部とコクド・煙道・煙突が検出されたほか、窯体周囲の西側・北側・東側にはそれぞれ作業場と考えられる平坦面が、西側と東側には加えて石垣がみられた。さらに東側では通路（階段）と区画溝が確認されている。

今回の調査地点では、窯体の東側の平坦面とこれにつながる通路（階段）、石垣などの延長部分を確認した。調査区北端部は最大で厚さ1.2mに達する大量の板トチからなる物原層で覆われ、その一部が東側の平坦面にまで及んでいた。可能な範囲内でこれを除去したところ、平坦面の境界を不整形な凹みとして認識できた。平坦面の規模は検出範囲で4×3m、3個の礎石列とピット1基がみつかり、小規模ながらも建物の存在が想定される。出土遺物は陶器の植木鉢、磁器の染付飯茶碗・湯呑・皿のほか、白色製品の焼成不良品が含まれる。匣鉢やエブタ、高台の歪みを防ぐ磁器製円柱形の窯道具などがある。なお、平坦面を造成した整地層にはここでも大窯期の擂鉢、天目茶碗陶片、窯道具が含まれており、破砕された小片が確認できた。

ま と め　聞き取り調査により北山窯跡の操業開始は明治35年に遡り、最終段階には戦前まで稼働していたことがわかっている。発掘調査の期間中には、当時の風景を記憶し、あるいは実際の作業に関わった体験をもつ複数の見学者から話を伺うことができた。埋蔵文化財として取り扱う場合にも近代の変化はめまぐるしく、時代を映す重要な情報が含まれていると考えられるが、既に詳細が復元できない事柄も少なくない。

（武部真木）



調査地点の堆積層断面（南から　上部が物原層）



平坦面と礎石列（南西から）



調査地点全景（東から）



階段・石垣部分（東から）



遺跡全景（画像上が北）
中央下寄りが北山窯調査地点、勘助窯跡は丘陵部斜面、調査区右手は久雲寺境内

清洲城下町遺跡（本発掘調査B）

所　在　地　清須市清洲地内
（北緯35度12分36秒　東経136度50分20秒）

調 査 理 由　総合治水対策特定河川事業

調 査 期 間　平成29年7月～平成29年9月

調 査 面 積　320㎡

担　当　者　酒井俊彦・蔭山誠一



調査地点（1/2.5万「清洲」）

調査の経過　今年度の調査は、五条川に関わる総合治水対策特定河川事業にともなう事前調査として、愛知県建設部河川課尾張建設事務所より愛知県教育委員会を通じて、愛知県埋蔵文化財センターが委託を受け、平成29年7月～9月に調査を実施した。調査区は五条川左岸で名鉄名古屋本線北側にあり、船杁橋から東に続く道路の南（320㎡）で、西側を17A区、東側を17B区として調査した。

立地と環境　清洲城下町遺跡は五条川中流域に形成された自然堤防と後背湿地上に立地する古代から近世にかけての複合遺跡である。遺跡の中央には、名古屋方面の南南東から北北西に伸びる美濃街道が走っており、美濃街道が五条川を東から西にわたる地点の北に清洲城の本丸が想定されている。

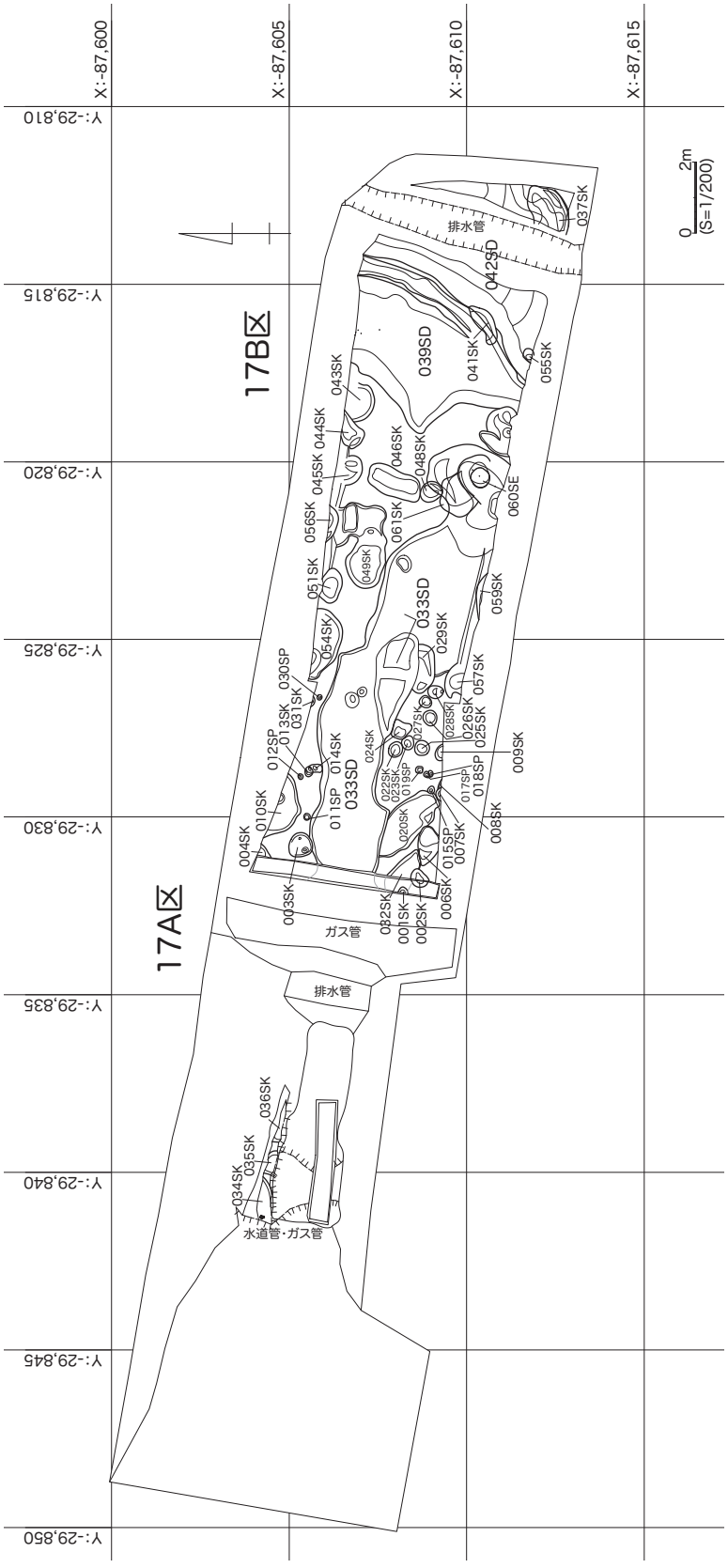
調査の概要　今回の調査では、奈良時代から江戸時代にかけての大きく３時期の遺構と出土遺物が確認できた。

（１）奈良時代

遺構はみつからなかったが、戦国時代の遺構から須恵器が出土した。17A区の下層の砂の中からほぼ完全な状態で須恵器の鉢が出土した。他にも古墳時代前期初頭のS字口縁台付甕の破片も出土しており、付近の場所から旧河川によって流れてきたものと考えられた。



調査区遠景（東より）



清洲城下町遺跡17区遺構平面図（1：200）

（２）鎌倉時代

奈良時代と同様で遺構は確認できなかったが、戦国時代の遺構や下層の河川の砂の地層から山茶碗と小皿、甕が出土した。付近の地点から、旧河川によって運ばれたものと思われる。

（３）戦国時代～江戸時代前期

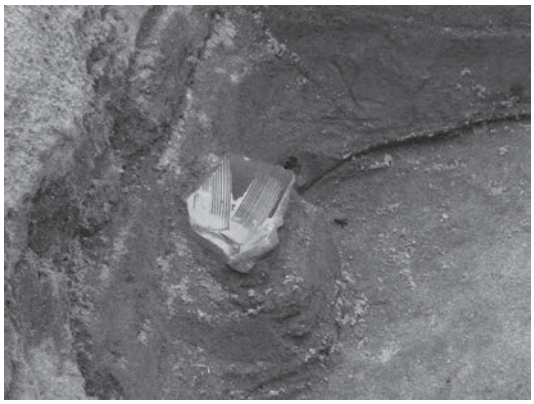
井戸1基、溝3条、土坑59基、自然流路1条を確認することができた。戦国時代の遺構では、17B区でみつかった自然流路が最も古く、東北東から西南西に流れていることがわかった。その後自然流路に重複して、井戸や溝が掘られており、土坑がその周囲に多数検出できた。井戸の中には、結桶が据えられていた。また、溝は調査区の北西を区画するようにめぐっており、井戸や土坑と重複するものがあった。出土遺物には、灰釉壺や鉄釉壺、天目茶碗、・灰釉皿・擂鉢、磁器の小皿、土師器の鍋・皿、小皿、瓦などがあった。

ま と め　清洲城下町遺跡は、これまでに多くの発掘調査が行われ、江戸時代の古城絵図などを参考に戦国時代のおおよその姿が復元されている。今回の調査地点は16世紀末～17世紀初頭における清洲城下町遺跡の中で、中堀と外堀の間にある町家推定域に当たる地点である。その一部を確認できたのみではあるが、戦国時代にさかのぼる河川の痕跡と思われる自然流路や17世紀初頭頃に営まれた区画溝や井戸、土坑を明らかにすることができた。

（蔭山誠一）



17A区西側全景（南より）



17A区034SK遺物出土状況（南より）



17A区東側遺構検出状況（北西より）



17A区東側全景（東より）



17A区下層（064NR）出土須恵器



17B区遺構検出状況（北西より）



17B区全景（北西より）



17B区井戸060SE（南西より）



17B区下層（064NR）全景（北東より）



17B区下層（064NR）土師器出土状況（東より）



17B区下層（064NR）擂鉢出土状況（北東より）



17B区下層（064NR）灰釉皿出土状況（南東より）

牛寺（ごでら）遺跡（本発掘調査A）

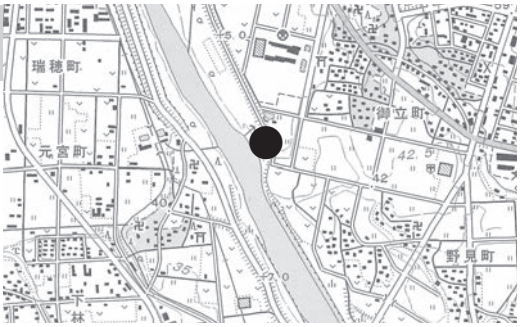
所　在　地　豊田市御立町地内
（北緯35度4分24秒 東経137度10分11秒）

調 査 理 由　矢作川河川改修

調 査 期 間　平成29年5月～平成29年6月

調 査 面 積　200㎡

担　当　者　酒井俊彦・樋上 昇



調査地点（1/2.5万「豊田南部」）

調査の経過　発掘調査は、矢作川河川改修工事に伴う事前調査として、国土交通省中部地方整備局豊橋河川工事事務所より愛知県教育委員会を通じた委託事業としておこなった。

牛寺遺跡は矢作川左岸の自然堤防上に立地する。1973（昭和43）年度の豊田市教育委員会の調査で古瓦が大量に出土したことから「牛寺廃寺」として認識されたが、寺院としての確実な遺構は確認されていない。その後、1991（平成3）年度に豊田市教育委員会、2005（平成17）年度に愛知県埋蔵文化財センターによって発掘調査がおこなわれ、縄文時代中期後半から中世にかけての複合遺跡として知られている。

調査の概要　このたび、堤防内の矢作川河川敷の地盤掘り下げにともない、遺跡の範囲を確定する必要が生じ、本発掘調査Aを実施することとなった。

結果、かつての矢作川の自然堤防が残る標高37m以上の地点では竪穴建物・土坑・溝などの遺構、平瓦・須恵器・山茶碗などの遺物の出土を確認したが、それより標高の低い箇所においては、明確な遺構や遺物を確認することができなかった。　（樋上　昇）


T.T.13全景（南から）


T.T.14全景（南から）


T.T.18全景（西から）


T.T.20全景（南から）

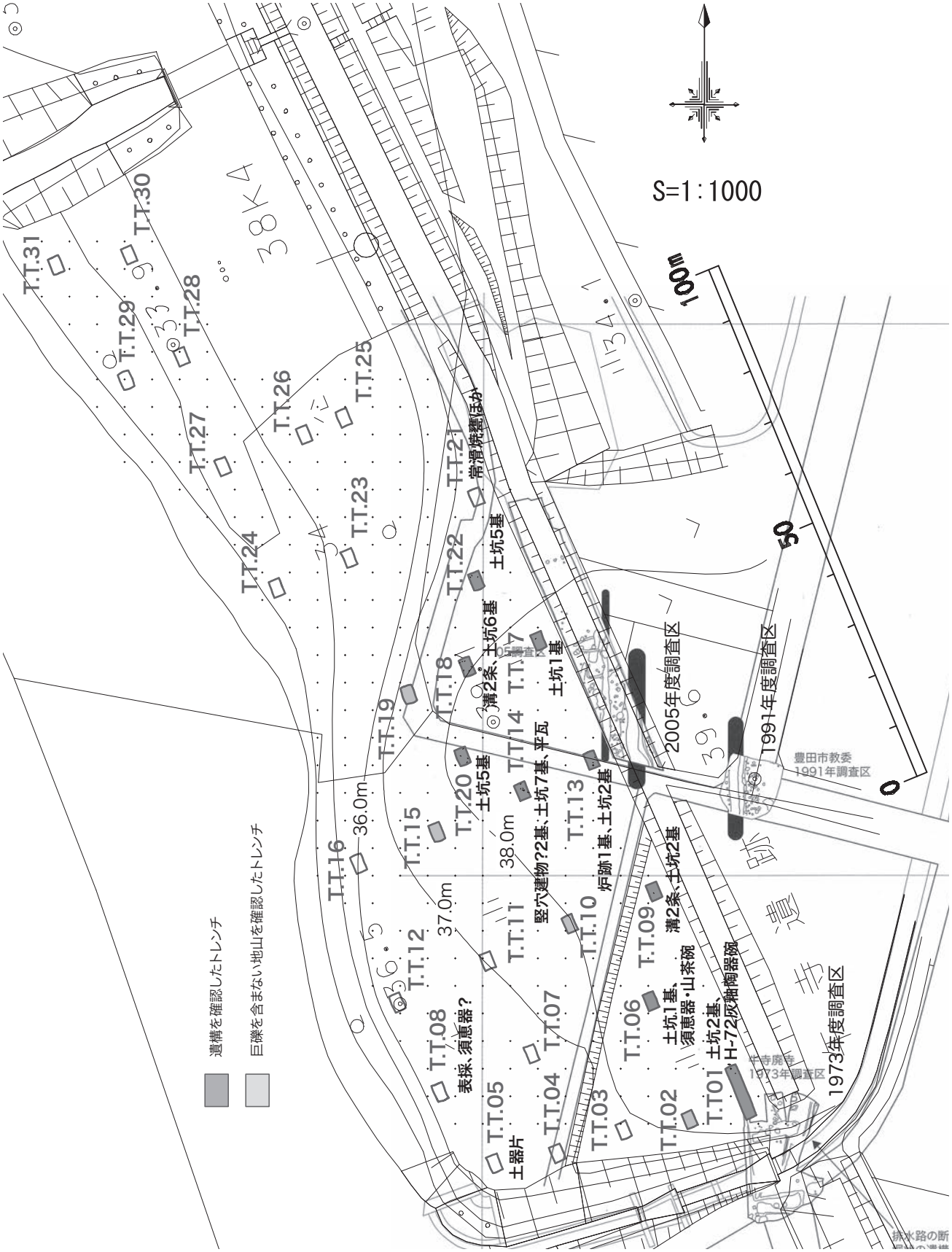


図1 トレンチ配置図 (1:1,000)

むかいだ 向田遺跡（本発掘調査A・B）

所在地　安城市東町地内
（北緯34度55分3秒 東経137度5分51秒）

調査理由　中小河川改良事業（鹿乗川）

調査期間　平成29年10月～平成30年1月

調査面積　1,524㎡

担当者　酒井俊彦・樋上 昇



調査地点（1/2.5万「西尾」）

調査の経過　発掘調査は、鹿乗川の改修工事に伴う事前調査として、愛知県建設部河川課知立建設事務所より愛知県教育委員会を通じた委託事業としておこなった。

立地と環境　向田遺跡は碧海台地東側の縁辺に位置し、矢作川右岸の氾濫原平野に立地する。上面での遺構検出面の標高は約7.5mを測る。

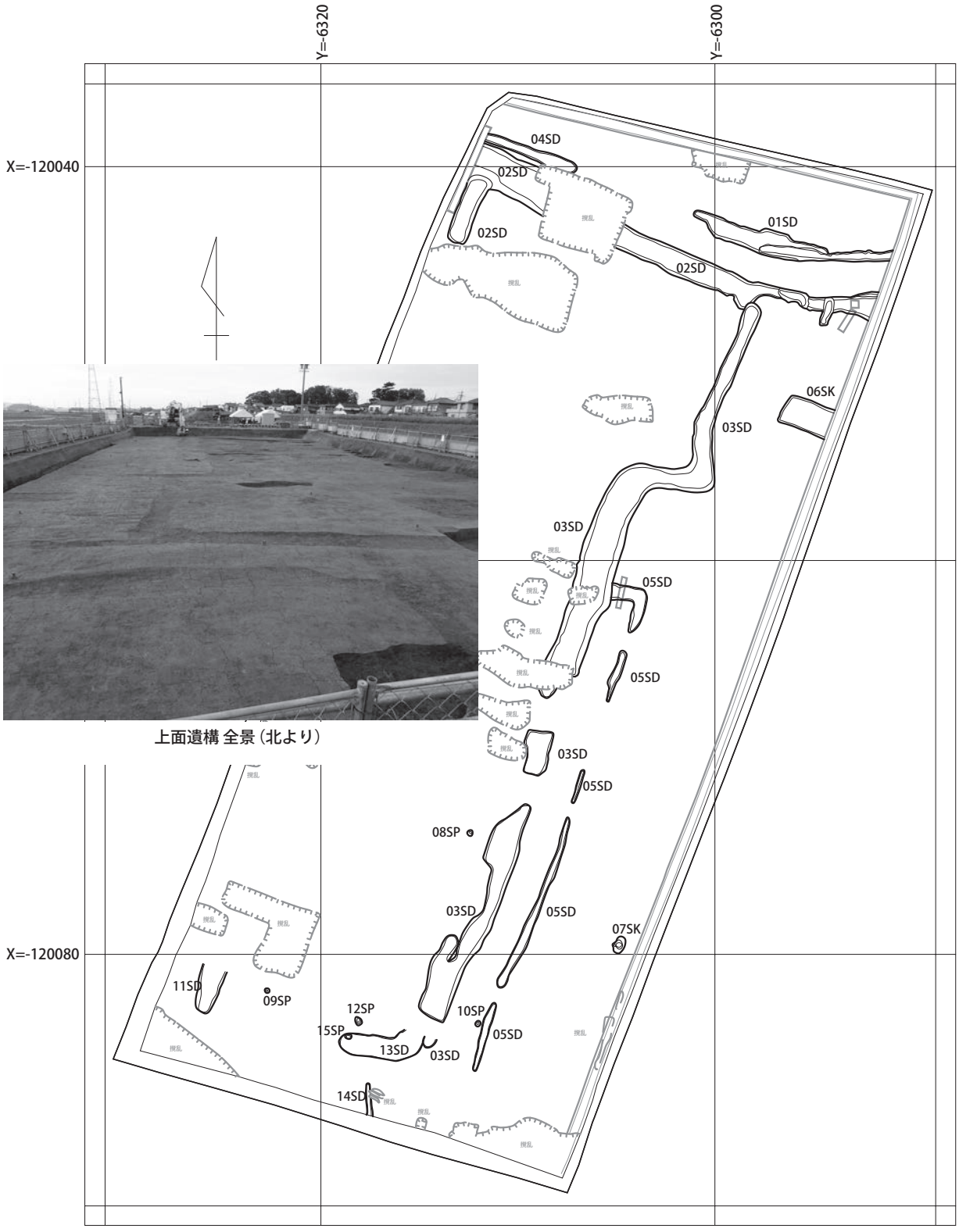
調査の概要　向田遺跡は岡崎市南西部から安城市南東部に展開する鹿乗川流域遺跡群の北群と南群のちょうど中間に位置し、平成12年度に安城市教育委員会によって実施された発掘調査において、その存在が確認された。また同年度におこなわれた愛知県埋蔵文化財センターの範囲確認調査においても遺構の存在が確認され（今次調査の110SKがそれにあたる）、その遺構が存在する区画1,500㎡を今回、本発掘調査Bとして実施した。また、遺跡の南方への広がりを確認するため、本発掘調査Bに先だって24㎡（4×3mトレンチ2ヶ所）を、本発掘調査Aとして掘削した。

その結果、厚さ約0.5mにおよぶ暗茶褐色土～黒色土の堆積層を境に、上面―中世～近世、下面―古墳時代初頭～前期の2時期の遺構面を確認した。

上面遺構　上面遺構は溝と土坑からなり、溝は北で20～25°東に振れた、現在の鹿乗川とほぼ同じ軸線に乗っている。南北方向の溝03SDが調査区を南北に縦断し、北でそれに直交する03SDに接続する。



向田遺跡 遠景（南より）



上面遺構 全景（北より）

図1 上面遺構全体図（S=1:300）

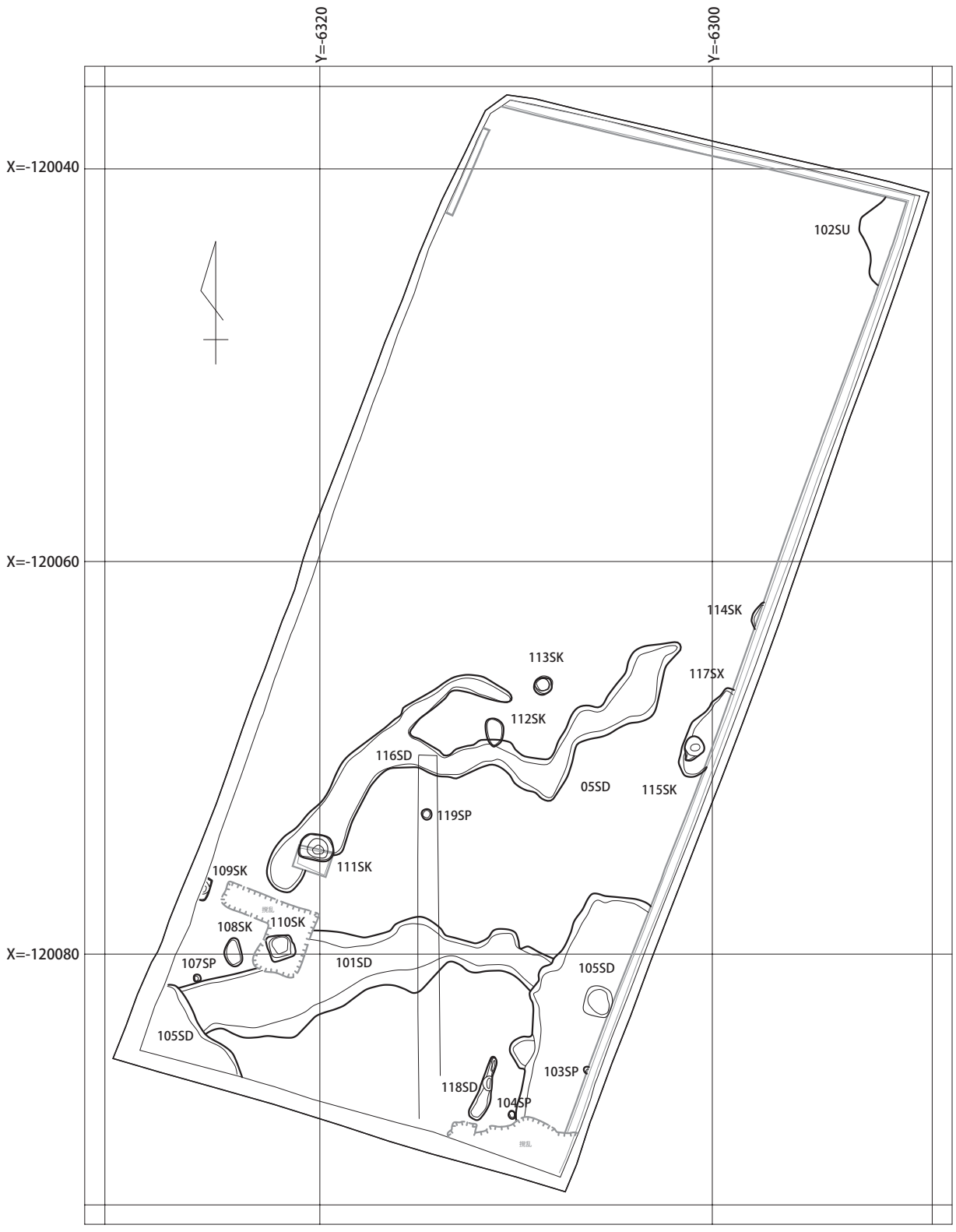


図2 下面遺構全体図（S=1:300）

下面遺構　下面遺構は、調査区のほぼ南半部のみに展開する。かつての鹿乗川の流路の一部とみられる105SDが調査区南東隅を北東から南西方向に走り、ここからオーバーフローした流路の痕跡とみられる溝101SDと116SDが、やはり北東から南西方向に伸びている。これら溝群のうち、101SDと105SDの最上層からは古墳時代前期を中心とする土器片が少数出土している。

また、これら溝群と重複して、8基の土坑を確認した。うち、110・111・113SKからは、古墳時代初頭～前期とみられる土器群が出土している。なかでも111SKからは木質遺物とともに、上層と下層に分かれて甕が出土しており、特に下層の完形の甕2点が注目される。



110SK 遺物出土状況（北東より）



111SK 遺物出土状況1（南より）



113SK 遺物出土状況1（北西より）



111SK 遺物出土状況2（南より）



113SK 遺物出土状況2（北東より）



111SK 遺物出土状況3（南より）

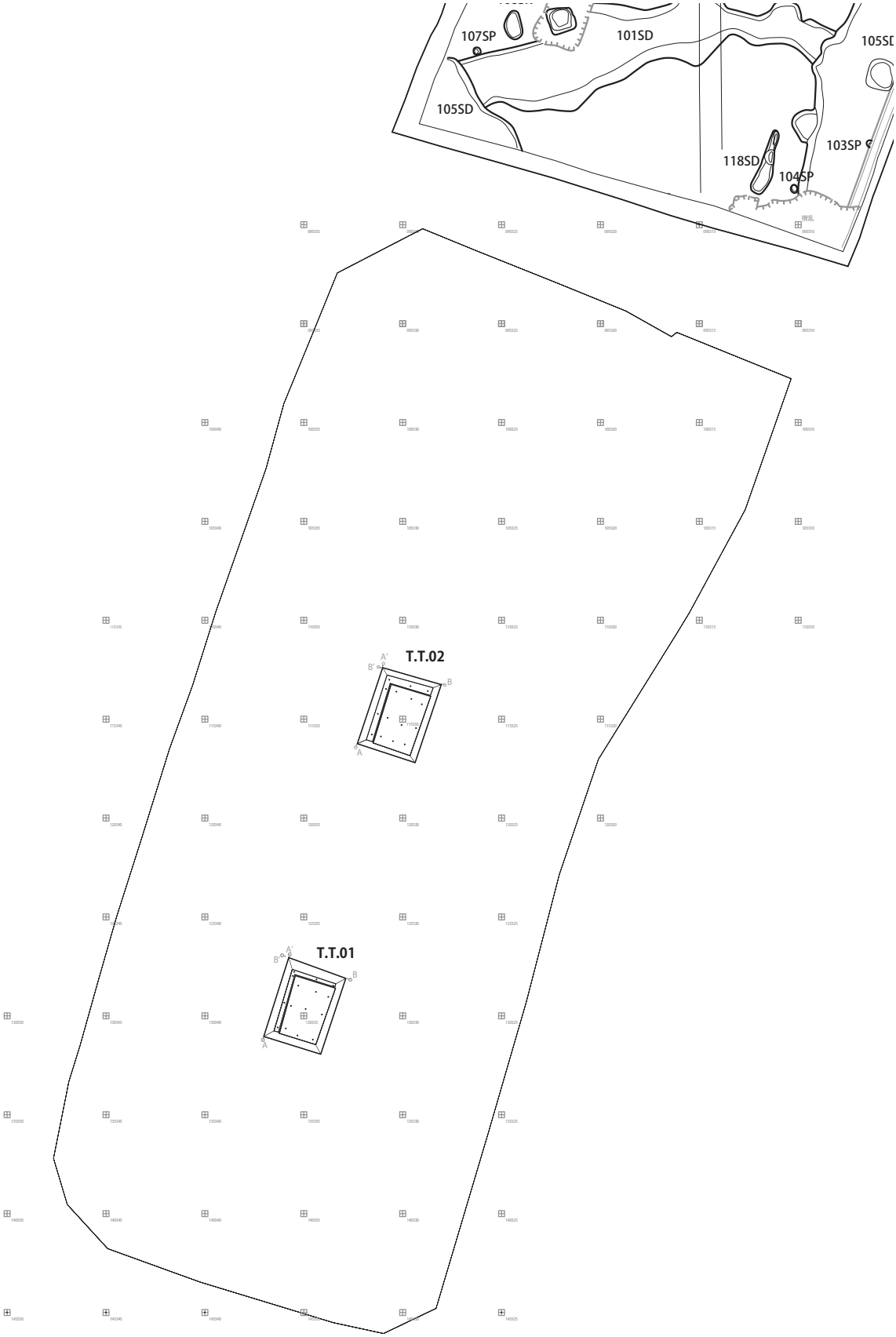


図3 本発掘調査Aトレンチ配置図（S=1:300）

さらに、調査区の北東隅には地山面の高まりがあり、ここからは屈折脚高杯を含む古墳時代前期後半を主体とする土器集積（102SU）を確認した。この土器集積と南の土坑群との関連性は明確ではなく、むしろ102SUより北東側に伸びていく微高地の存在が想定される。

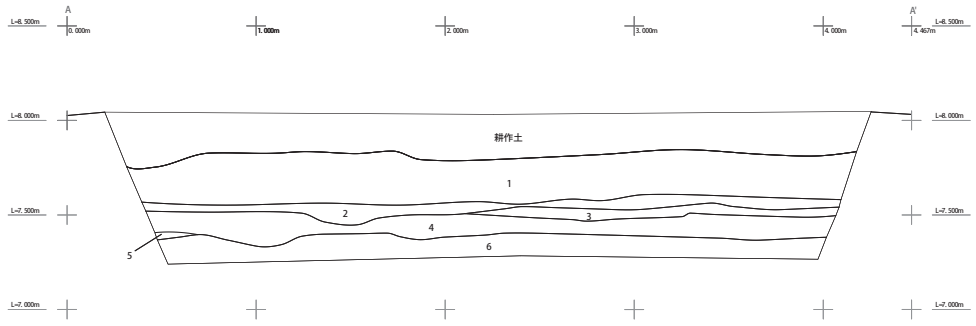
本発掘調査A

本発掘調査Aは、前述のように本発掘調査Bの調査区の南に接する区画において、4×3mのトレンチを2ヶ所設定して掘削をおこなった。

結果、T.T.01・T.T.02の両トレンチともに、本発掘調査Bにおける下面遺構の地山面に相当する灰黄色砂質シルト層の上面にて精査をかけたが、遺構は確認できなかった。

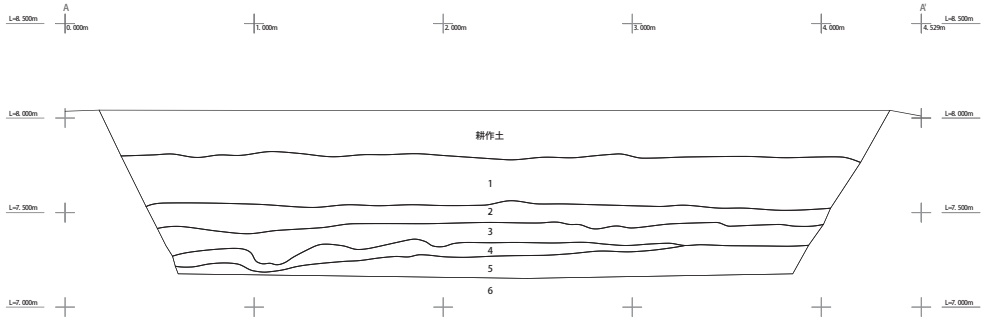
また、その上層で、本発掘調査Bでは下面の遺物包含層に相当する暗灰黄色砂質シルト層からは若干の遺物が出土しているが、黒褐色シルト層からの出土は無かった。

これらのことから、本発掘調査Bの南半部で確認した土坑を主体とする遺構群の広がりは、南の本発掘調査A地点にはおよんでいなかったものと考えられる。　（樋上　昇）



T.T.02

耕作土　2. 5Y4/1 黄褐色粘質土
1層　2. 5Y5/3 黄褐色シルト
2層　2. 5/5/2 暗灰黄色シルト 鉄分含む
3層　10YR3/2 黒褐色シルト 鉄分含む
4層　2. 5Y7/2 灰黄色砂質シルト 鉄分3層より少ない
5層　5Y6/2 オリーブ灰色細粒砂
6層　10YR4/1 褐灰色粗粒砂



T.T.01

耕作土　2. 5Y4/1 黄褐色粘質土 雲母細粒含む、2層よりも鉄分少ない
1層　2. 5Y5/3 黄褐色シルト 鉄分含む
2層　2. 5/5/2 暗灰黄色シルト 鉄分含む
3層　10YR3/2 黒褐色シルト
4層　2. 5Y7/2 灰黄色砂質シルト
5層　5Y6/2 オリーブ灰色細粒砂
6層　10YR4/1 褐灰色粗粒砂

図4 本発掘調査Aトレンチ土層断面図（S=1:40）

大畑（おおはた）遺跡（本発掘調査B）

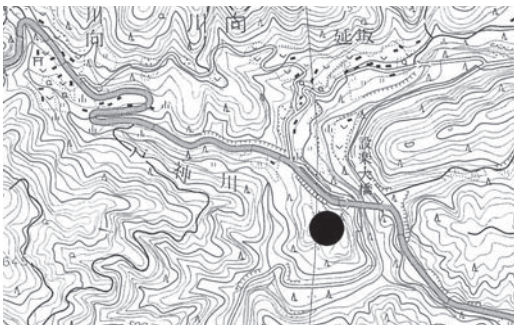
所在地　北設楽郡設楽町川向地内
（北緯35度6分33秒 東経137度33分58秒）

調査理由　設楽ダム

調査期間　平成29年5月～平成30年1月

調査面積　13,950㎡

担当者　鈴木正貴・鈴木恵介・早野浩二・永井邦仁・松田訓・永井宏幸



調査地点（1/2.5万「田口」）

調査の経過　発掘調査は、設楽ダムの建設工事に伴う事前調査として、国土交通省中部地方整備局設楽ダム工事事務所より愛知県教育委員会を通じた委託事業として行った。

立地と環境　大畑遺跡は、境川と戸神川の合流点北東側に位置している。両河川は遺跡を挟んで標高約370mの谷底を流れているが、遺跡はそこから崖や急斜面で隔てられた山地の頂部に所在し、標高は430～446mである。その頂部には、東西2か所に南北方向に細長い平坦面を有する尾根があり、それらにはさまれて南側へ抜ける谷地形が存在する。この谷地形の奥部は、くぼ地状になっており、そこを中心に黒色土が堆積している。遺跡はこの谷地形を中心として広がっていると想定されている。なお、遺跡南側の境川沿いには川向東貝津遺跡、同西側の戸神川沿いに大栗遺跡があり、両遺跡では平成27～28年度に行われた発掘調査で縄文時代中期の竪穴建物跡などが検出されている。

調査の概要　調査区は、設楽ダム常時満水時の水位である標高438m以下で設定された。調査は谷地形の最下部を南北に伸びる作業用道路を挟んだ東西で区切られた東側の17A・B区から着手し、次いで西側の17C・D区へ進んだ。その後、先述のくぼ地に堆積した黒色土の下面で遺構検出を行った。検出された主な遺構は、縄文時代の竪穴建物跡12基の他に竪穴状遺構1基や集石炉1基、陥し穴8基などがある。

A区　A区は東側尾根周辺の斜面に設定された。その南端には片麻岩を主体とする岩盤が露頭し、この岩盤と上部の粘土層（基盤層）の境界付近では常時湧水が発生している。検出された主な遺構は竪穴建物跡1基と性格不明土坑1基、陥し穴２基と少ない。しかし尾根上方の斜面地では、凝灰岩の石器剥片や縄文時代前期の土器の他に灰釉陶器碗（黒笹90号窯式期）も出土している。これらの遺物は、調査区外となっている東側頂部の平坦面から流出したものと考えられ、当該地点にも遺跡が広がっていることを示している。

竪穴建物跡065SI　竪穴建物跡065SIは尾根筋のわずかな緩斜面（標高約432m）に単独で立地している。平面形は若干いびつな円形もしくは多角形を呈し、長径4.4mを測る。緩斜面を掘り込んでいるため遺構検出面からの深さは北端で0.48mであるのに対して南端では数cmしかない。壁溝はなく柱穴4基と底面中央部やや北寄りに一辺0.5～0.6mの方形石囲炉がある。石囲炉は板状の片麻岩を組み合わせたもので北東隅に摺石、北西隅に副炉がそれぞれ設置されている。副炉は石囲炉の外側に板状の礫3点を組み合わせたものであるが、その内部には顕著な焼土や炭化物はみられず、その脇で石鏃1点が出土している。なお、石囲炉本体においても多量の炭化物はなく、底部の礫が一部赤変しているのが確認されたのみである。竪穴建物跡の埋土は多量の炭化物や炭化材を含んでいるが、出土土器はごくわずかである。時期は縄文時代中期末と考えられる。

D　区

遺跡南西部に設定されたD区では、縄文時代の竪穴建物跡2基、時期不明の竪穴状遺構1基が検出された。竪穴建物跡440SIは、谷地形西側の尾根上平坦面（標高約433m）に位置する。平面形はやや歪な六角形であり、長径3.8mを測る。遺構検出面からの深さは最大で約0.3mである。壁溝はなく、主柱穴を特定しにくいが、壁に沿って8基のピットが検出されており、これが関係しているものと考えられる。また当該遺構では炉も検出されず、焼土や炭化物の出土も少ない点が特筆される。出土遺物は埋土中から縄文土器の小片が出土しているのみで中～後期と推測される。竪穴建物跡490SIは、440SIの東側斜面を下った標高約432mに立地する。平面形は楕円形に近い隅丸長方形で長径4.0m、短径3.3mを測る。遺構検出面からの深さは最大で約0.4mである。当該遺構も壁溝や炉はなく主柱穴が特定しにくい。埋土中の出土土器はわずかであるのに対し、白色の凝灰岩を中心とする石器剥片が多くみられる点が特徴である。当該遺構については詳細な時期は特定できていない。この他440SIから約20m南方に竪穴状遺構370SXがある。当該遺構の平面形は隅丸長方形で長径5.4m、短径4.2mを測る。壁溝に相当する小溝が一部にみられ、底面の一部で焼土塊が検出されている。しかし顕著な遺物がなく、縄文時代の竪穴建物跡とはしがたい。

黒色土とくぼ地

遺跡中央の谷地形とくぼ地に広がる黒色土の範囲は約700㎡である。黒色土の上面では顕著な遺構や遺物が検出されていない。くぼ地では黒色土が最大で約1.1m堆積しているが、同層中からの出土遺物は少なく縄文土器の小片や石器剥片が出土しているのみである。これに対して黒色土下の基盤粘土層上面で行った検出によると、くぼ地から南へは幅約5.0mの自然流路が約75m延びており、若干砂の混じった黒色土の堆積とともに尾根上からの転石が多数みられる。湧水を利用する施設の存在も想定されたが、顕著な遺構や遺物はみられなかった。一方、くぼ地の特に縁辺では陥し穴6基が検出され、磨石や石皿など堅果類の加工を思わせる遺物が出土しており、湿地の周辺が活動範囲になっていたことが考えられる。（永井邦仁）

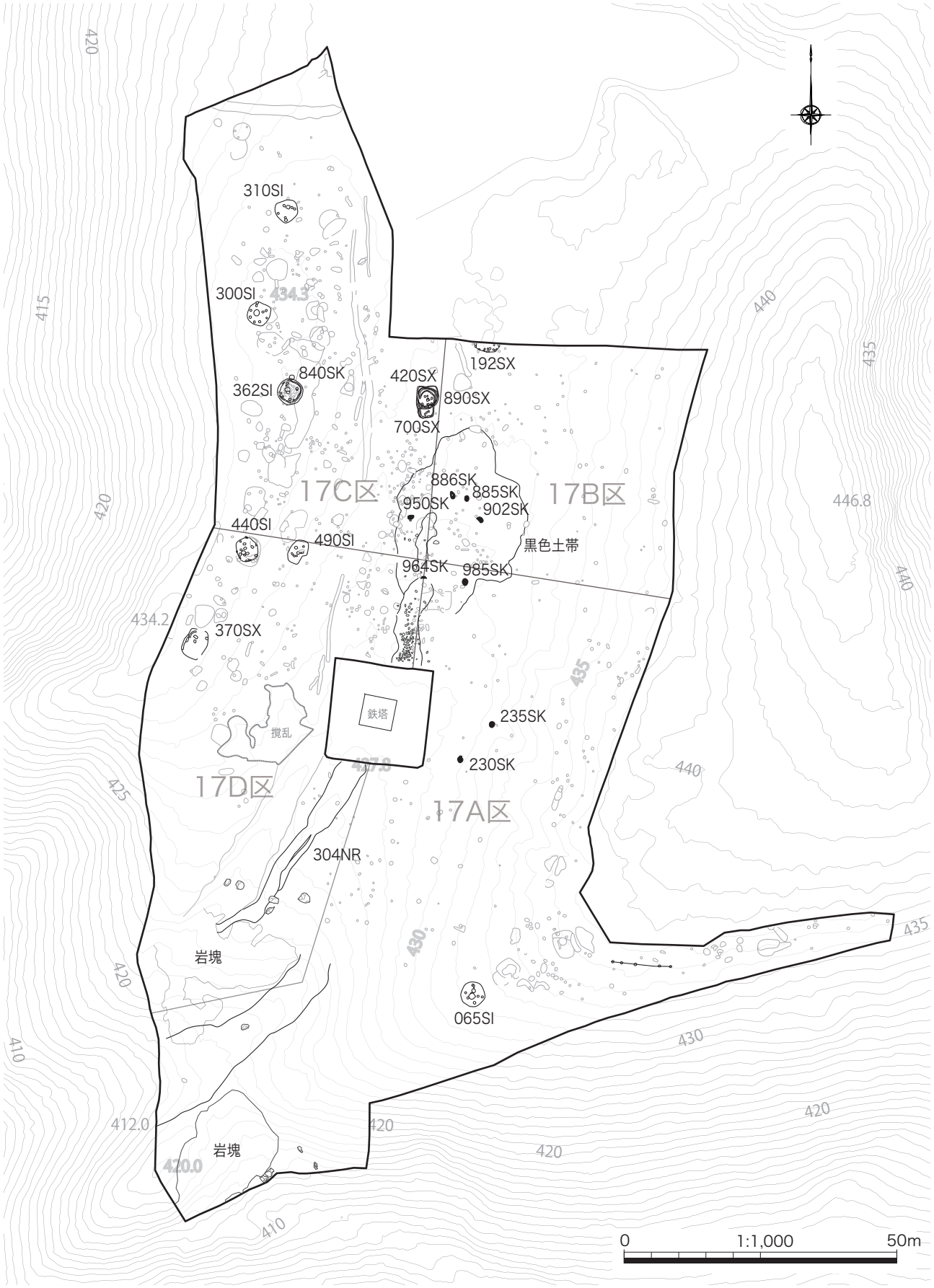
C　区

C区は遺跡北西部の主に丘陵頂部周辺に設定された。遺構は縄文時代の竪穴建物跡８基、近世以降の道路状遺構が検出された。竪穴建物跡は、300SI、362SIが石囲炉を伴い、420SI、890SI、1030SI、700SI、1000SIはほぼ同位置で重複して検出されている。

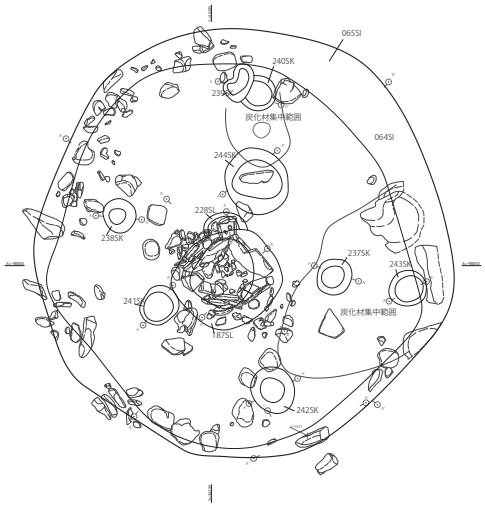
竪穴建物跡300SI

300SIは平面形が長辺4.1m、短辺4.0mの隅丸方形もしくは多角形の形状を為し、内部の石囲炉390SLは円形もしくは多角形となっている。遺構検出面からの深さは、西端で0.1m、東端で0.2mと底面が緩やかに東へ傾斜している。埋土には焼土、炭化物、炭化材、黒曜石、熔結凝灰岩の破片や剥片が多数検出された。柱穴は831SP、832SP、833SP、834SPの４基が検出され、深さはいずれも0.4m以上を測る。石囲炉390SLは、28点の礫によって上端が囲まれ、竪穴建物跡床面からの深さは最も深い部分で28cmを測り、内部は側面から底面にかけて非常に強く被熱している。礫の設置に伴う掘方は礫の後背部に確認できず、炉の上端側面に貼り付けるような方法で構築されたようである。竪穴内では周溝は検出されていない。また、西側の丘陵頂部付近の竪穴建物跡の内、遺構検出面の標高が最も高いのが300SIで、433.7m付近に位置している。

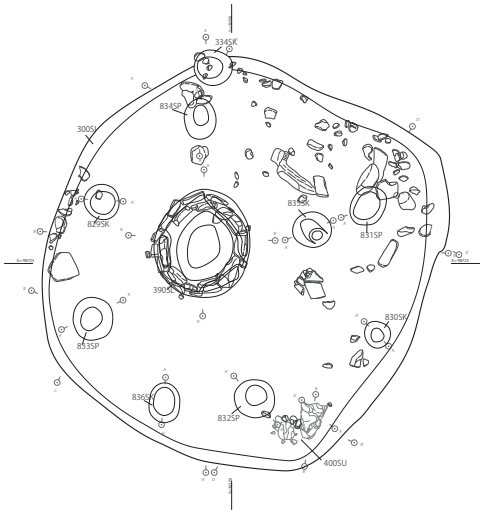
300SI検出時に称名寺式期の縄文土器破片が検出されていることから、300SIに重複する他の遺構の存在も想定されたが、炉と同一の底面南東隅部では山の神１式期の深鉢が口縁部を北側に向けて倒れた状態で検出されている。炭化材の多さから300SIは火災住居である可能性も指摘されているが、出土した深鉢は二次被熱は見られないことから、300SI廃絶後に設置された可能性も伴う。石囲炉や柱穴を伴う竪穴建物跡300SIはこれに基づい



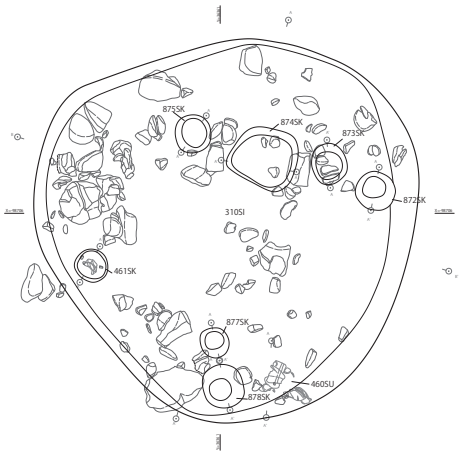
大畑遺跡遺構全体図（S=1:1000）



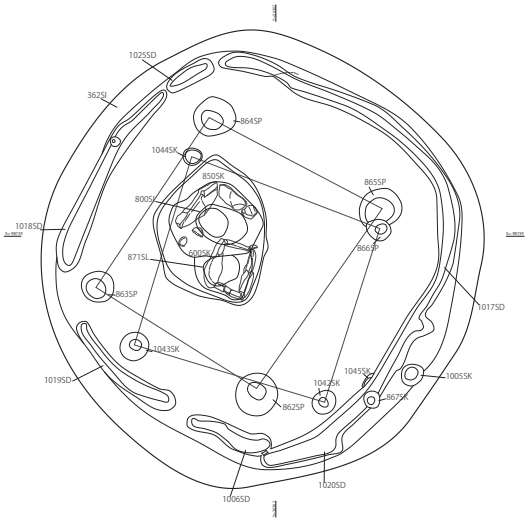
竪穴建物跡 065SI



竪穴建物跡 300SI



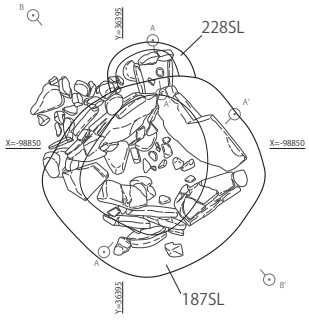
竪穴建物跡 310SI



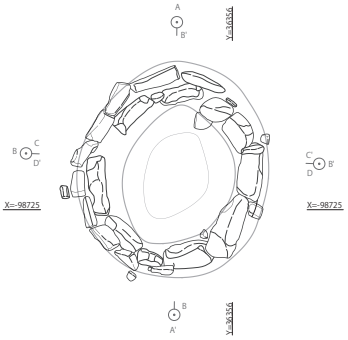
竪穴建物跡 362SI



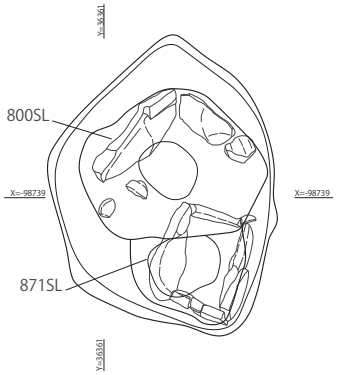
(065SI,300SI,310SI,362SI)



065SI 石囲炉



300SI 石囲炉



362SI 石囲炉



(065SI 石囲炉 ,300SI 石囲炉 ,362SI 石囲炉)

た時期の遺構と推定される。

竪穴建物跡 310SI

310SIはC区丘陵頂部付近の竪穴群では最北に位置する。平面形は角の丸い五角形状で、長辺4.1m、短辺4.0mを測る。竪穴建物跡の底面は北西方向に向かって傾斜し、遺構検出面からの深さは0.2m～0.3mを測る。

竪穴内南東隅部では深鉢が口縁を西に向けて倒れた状態で検出された。土器の外形としては形状を保っておらず、扁平な状態となっていた。この土器については、親田式もしくは中富式と指摘されている。

炉は検出されなかった。柱穴は明確なものが875SKと877SKの２基確認され、それとは別に竪穴内南端付近に土坑878SKが検出された。878SKは竪穴底面からの深さ0.3mを測り、埋土からは土器破片も検出されている。竪穴に付属する遺構と考えられるが性格は不明。また、竪穴内の中央より北西側に偏在する大小多くの礫が検出され、これらについては屋根材の一部との指摘もある。

竪穴建物跡 362SI

362SIは遺跡西側の丘陵頂部中央付近に位置する竪穴建物跡である。数次に渡り改築がこなわれているが、最初期の形状は平面形が長辺4.68m、短辺4.57mを測る隅丸方形。遺構検出面からの深さは0.4m。検出段階で362SI上には石列450SX、北側に接する石敷炉840SLが確認され、炉内部の下位は礫を組み合わせ、被熱した状態が確認できる。平面の切り合いから840SLは362SI埋没後の構築であることが確認されている。362SIとの切り合い関係から縄文時代中期後半以降の時期を想定している。また、450SXは362SIが完全に埋没した後に北半部分縁辺部に沿うように組み合わせて据えられており、362SIの廃絶に伴う儀礼行為と考えられる。同様に840SLについても362SIに近接した位置に構築されたことと合わせて、362SI廃絶に関連する遺構と推定している。

竪穴建物廃絶に伴う儀礼行為

362SIは建て替えが行われ、合わせて炉が２基、柱穴８基が検出された。炉800S Lが最初期の炉であり、これに伴う柱穴は862SP、863SP、864SP、865SPである。800SLの南東側の炉石を外し、新たに設けられたのが871SLである。これに伴う柱穴は800SLに伴う柱穴よりも径が小さな866SP、1042SP、1043SP、1044SPである。それぞれの石囲炉に伴う柱穴が存在することから、800SL段階の建物は、一旦廃絶し、871SLと共に新たな柱穴を用いた建物が再度構築されたことが想定される。362SI掘削中に断面において確認された焼土層600SLも一旦は炉と推定したが、結果的には871SLの焼土を西側に掻き出したものと見られた。この焼土層が800SLの上位に堆積していることからも800SLが先行した炉跡であることが確認できる。

周溝1017SD、1018SD、1019SD、1020SD、1025SDはほぼ底面全周に巡り、南西と北西で一部途切れる。362SIの断面で確認された埋没状況から、これらの周溝は800SL使用時の初期段階のものと考えられ、前述の600SLの焼土堆積状況と考え合わせて871SL段階では底面が数cm高い位置で使用され、周溝は掘削されていなかったと考えられる。

竪穴建物跡 420SI

420・700・890・1000・1030SIの重複した竪穴建物跡。周溝を伴う700SI、掘り込みの浅い1000SIの形状は、これらの遺構の北東側に位置する192SIも同様に浅い掘り込みで構築されており、関連も想定される。

重複関係は420SIが最新、890SI・1030SIがそれに続き、700SI・1000SIが古い段階の遺構と想定される。

420SIは一辺約3.3m、方形の掘方をもつ竪穴建物跡である。遺構検出面からの深さは0.3m。この遺構に伴う底面の遺構は見られない。断面観察から890SIや1030SIの埋没後に

再掘削し、構築された可能性が高い。

竪穴建物跡 890SI　890SIは推定直径3.3mの円形の掘方をもつ竪穴建物跡である。遺構検出面からの深さは0.35m。掘方の北側は420SIによる掘削にて欠損し、南側の掘方を残存する。底面には円形に巡る周溝を配する。小規模な土坑も周溝内に位置することから、底面で検出されている遺構は890SIに帰属する可能性がある。時期は420SIに先行する。

竪穴建物跡 1030SI　1030SIは一辺約3.6mの推定隅丸方形の掘方をもつ竪穴建物跡である。遺構内の多くは420SIや890SIによって欠損、北側と東西の掘方が残存し、南側の掘方は890SIによって欠損する。

竪穴建物跡 1000SI　1000SIは一辺約3.6mの方形の掘方をもつ竪穴建物跡である。420SI他の重複する竪穴状遺構の中では最も北に位置する。遺構面からの深さは深い部分でも0.1m程度である。南端部は直接的には890SIによって欠損している。北辺で検出されている底面が他より浅く、他の遺構に先行して構築されていたと考えられる。

竪穴建物跡 700SI　700SIは残存長3.0mを測る、南北方向に楕円形もしくは隅丸方形を呈する竪穴建物跡である。深さは浅く、遺構面より0.1m程度である。1000SIとの直接的な切り合いは確認できず、420SI、890SI、1030SIによって北半部を欠損し、これらに先行する時期の遺構と考えられる。

B　区　B区は東側の尾根に向かって登る斜面部を中心とする調査区で、明確な遺構は192SIがある。調査区内の高低差は大きく、最高で437m、最低で428mとなっている。

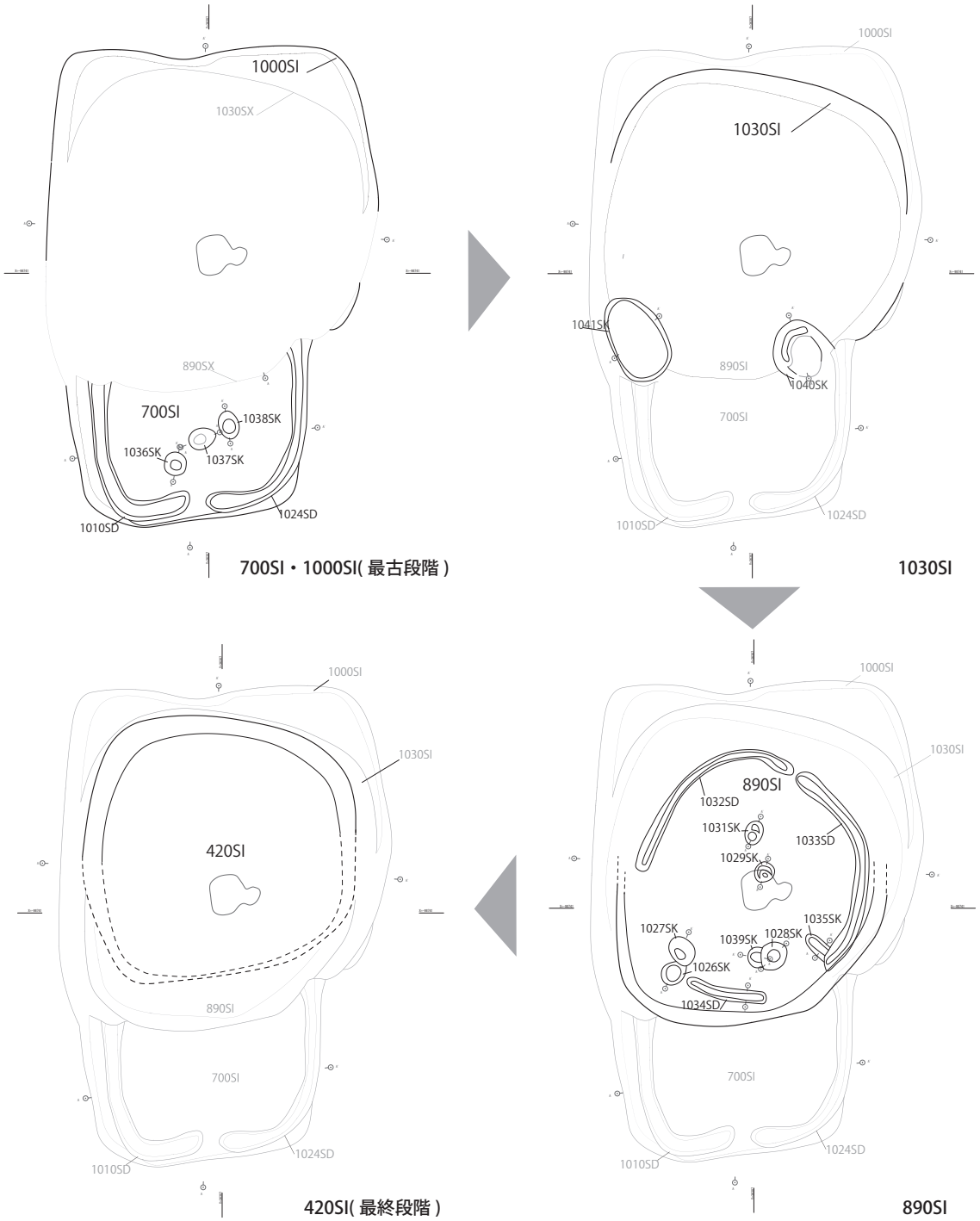
竪穴建物跡 192SI　192SIはB区北端で検出された竪穴建物跡である。調査区北へ残存部分が連続し、現状では南辺部分が検出された状態。遺構検出面からは非常に浅く、周溝の底部や小規模な土坑が検出された。断面では遺構の深さも0.1m程度が確認できるのみである。遺物は黒曜石や白色風化石材等の剥片が確認できた。検出中に出土した土器破片は北屋敷期相当との指摘を受けた。

ま　と　め　大畑遺跡の遺構分布状況は、西側のC・D区の丘陵頂部付近と中央の黒色土が分布するE区の谷部周辺に遺構が集中し、南部のA区内、丘陵先端部に離れて竪穴建物跡が検出された。調査区周辺にはAB区の東側に未調査の丘陵頂部が存在し、これと遺構の検出されたC・D区の西側丘陵部が対になって、E区の中央谷部を形成する地形であり、A区065SIの丘陵尾根上位部分では石器剥片等の遺物が周囲に比べて多く検出されたことも合わせて、東側丘陵部に遺構が存在する可能性は高く、これも含めて一連の遺跡と考えられる。

竪穴建物跡は合計12棟が検出されたが、検出された土器は縄文時代中期後半～後期と見られ、特に中期後半には複数の竪穴建物が並存する時期があったことが想定される。さらに、065SIの副炉や300SIの円形石囲炉など特徴的な構造の炉を持つ竪穴建物跡等、竪穴建物ごとに炉の有無や炉の形状などに差があることが判明した。また、420SIをはじめとする竪穴建物跡は5棟が重複した状況で検出されており、他の竪穴建物跡が時期が異なっても分散した位置を示すのに対して、同じ位置において幾度も建て替えられたことから、利用目的と位置の強い関連が想定される。

以上のように、調査区内の様々な地形に応じた遺構・遺物が検出されたことから、縄文時代中期から後期にかけての当該地域における丘陵部土地利用状況について有用な事例が調査できたものと思われる。

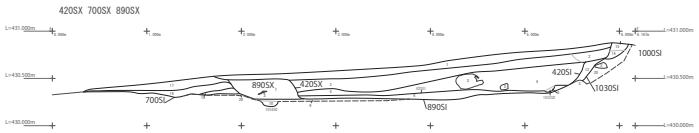
（鈴木恵介）



700SI・1000SI(最古段階)　1030SI

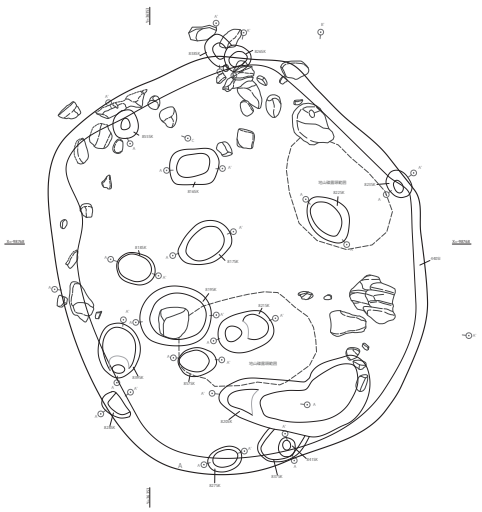
420SI(最終段階)　890SI

竪穴建物跡 420SI・700SI・890SI・1000SI・1030SI 変遷図（古い方から順に時計回りに配置 :S=1/80）

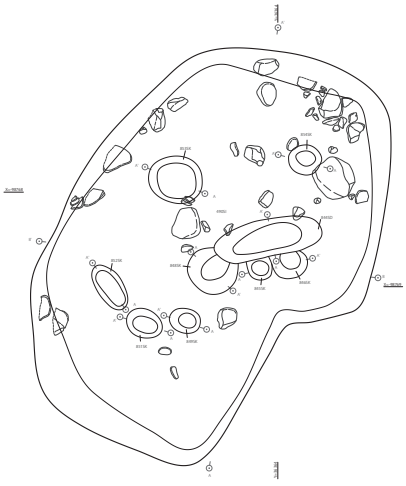


竪穴建物跡 420SI・700SI・890SI・1000SI・1030SI 南北方向断面図 (S=1/80)

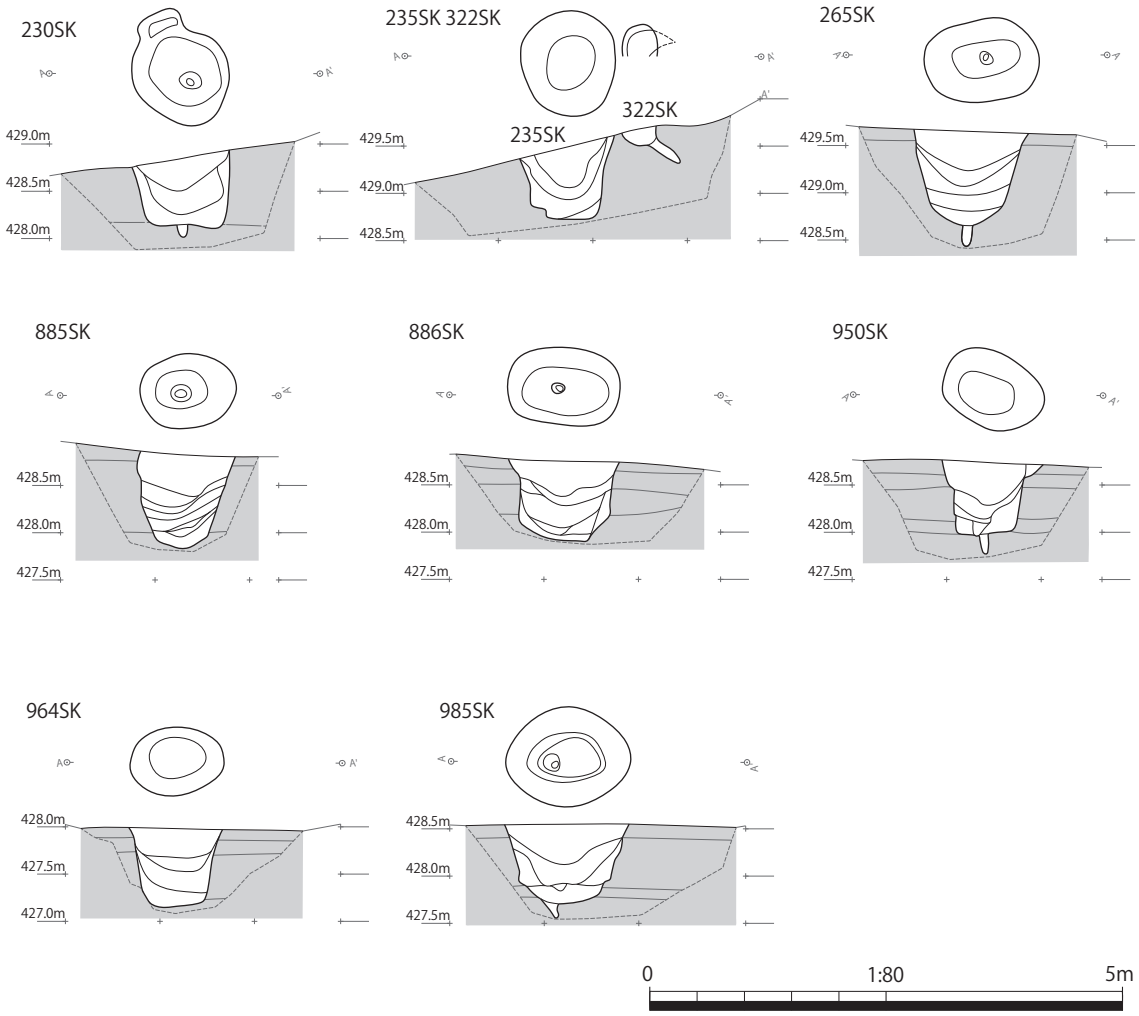
0　1:80　5m



竪穴建物跡 440SI(S-1/80)



竪穴建物跡　490SI(S=1/80)



大畑遺跡陥し穴 (S=1/80)



大畑遺跡遠景（北から）



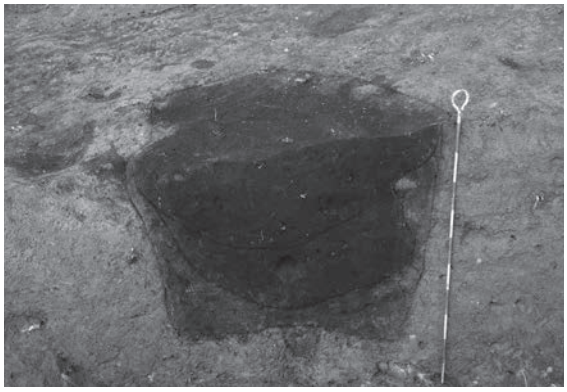
065SI 完掘（北から）



065SI の炉跡（東から）



440SI 完掘（北から）



230SK 断面（南から）



300SI の炉と柱穴（東から）



300SI の石囲炉 390SL（東から）



310SI 柱穴検出状況（北西から）



362SI に隣接する 840SL（北西から）



362SI 上面の石列 450SX（西から）



362SI の炉と柱穴（東から）

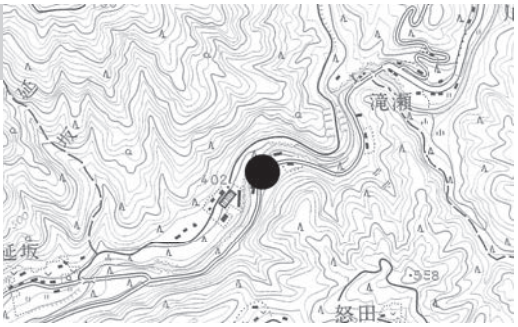


362SI 内の石囲炉　871SL（右）・800SL（左　南から）



420SI・700SI・890SI・1000SI・1030SI の重複（東から）

マサノ沢遺跡（本発掘調査B）



調査地点（1/2.5万「田口」）

所在地　北設楽郡設楽町大字小松字マサノサワ
（北緯35度7分4秒　東経137度34分35秒）

調査理由　設楽ダム

調査期間　平成29年7月～平成30年1月

調査面積　2,050㎡

担当者　鈴木正貴・永井宏幸

調査の経過　遺跡は大正12年頃の開墾で発見され、ついで昭和23から24年の開墾時に多量の土器・石器が出土し注目された。その後、平成17年に行われた県道設楽根羽線の改修工事に伴う試掘および立会い調査では、明確な遺構・遺物包含層は認められなかった。平成29年度発掘調査A（範囲確認調査）の成果を踏まえて本年度の調査は、国土交通省による設楽ダム建設事業関連埋蔵文化財調査として、愛知県教育委員会を通じた委託を受けて平成29年7月から平成30年1月にかけて実施した。

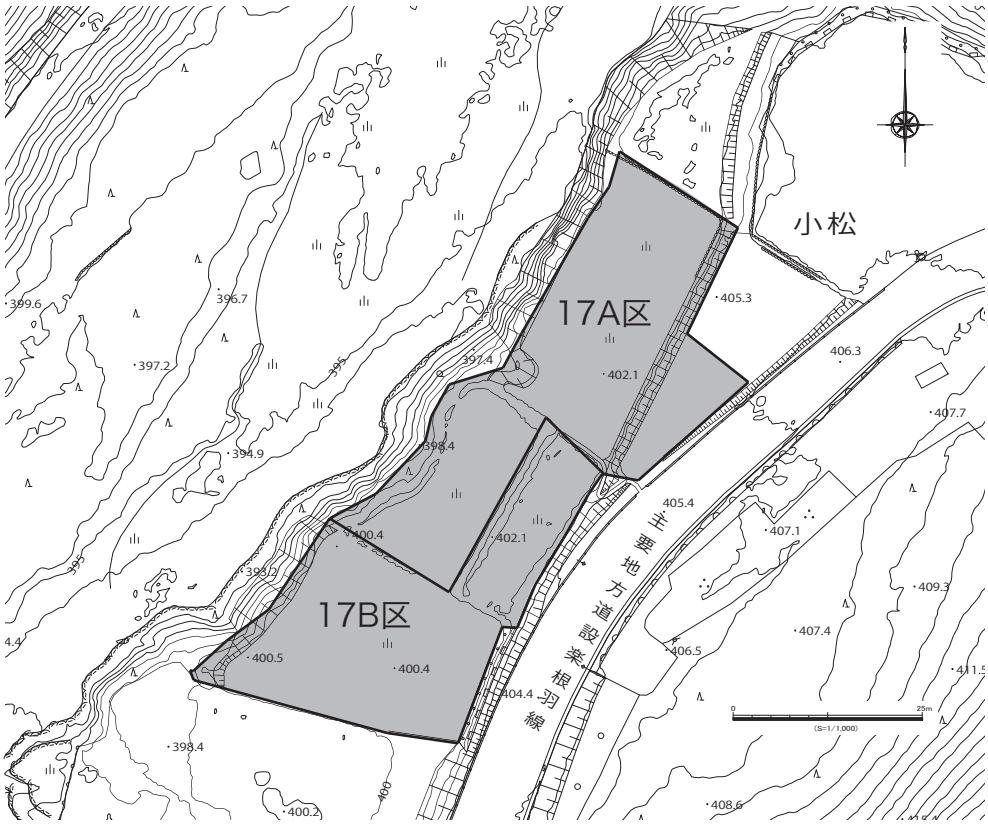
立地と環境　遺跡は、豊川水系に属する寒狭川の支流である境川の左岸に形成された幅狭な段丘面に位置する。遺跡付近は山腹に造成された県道によって地形が改変されたものの、境川が大きく蛇行する地点にあたり、北東から南西にかけて広がる緩やかな緩斜面に立地する。調査着手前は県道をはさんで山側に茶畑と山林、川側に水田・畑地および宅地があった。調査対象地の標高は一番高い道路際の北東寄り地点で405m前後、川側の低い南西寄り地点で400m前後である。

調査の概要　遺跡の基本層序は、A区北東の最上段部分を除き概ね以下の土層が上位から下位へ堆積していた。現況の水田、畑地などを中心とする耕作土、床土の下に、黒色土層（縄文晩期末～弥生前期を中心とする包含層）、褐色土層（縄文後期を中心とする包含層）、褐色～黄褐色土層の漸移層（基盤層）、黄褐色土層（基盤層）と続く。耕作土＋床土を重機により取り除いた後、遺構検出を行った。しかし、黒色土～褐色土層までの上位層は安定しておらず、現代の開墾などによって削平されていた。

調査の結果、縄文時代後期を中心とする墓地関連遺構と縄文時代晩期後葉から弥生時代前期にかけての土器棺墓が確認された。以下、その概要を示す。

A区北東の県道に接する緩斜面地は、縄文時代後期から近世の遺物を含む包含層が確認された。調査当初は県道拡幅時の造成により大きく削平されていたと考えていた。しかし、この造成土の下位から現代の開墾時による整地土が厚く堆積しており、現況より１m以上現代の堆積があった。調査区土層断面観察の結果、この堆積は大きく地盤を改変するのではなく、緩斜面地に整地土を盛ったと考えられる。遺物はこれら整地土の中からも多く出土している。縄文時代晩期後葉の小型壺、平安時代の灰釉陶器瓶類などを含む堆積層は、道路の山側にあった旧茶畑辺りの堆積層を県道周辺の造成土に利用したと考えられる。これら現代の堆積層を除去して緩斜面を確認すると数カ所で遺物の集積する場所と遺構を検出した。おそらく縄文時代後期と考えられるが、斜面地堆積なので自然の凹凸部分を遺構として認識した可能性も含めて再検討が必要である。

縄文後期　縄文時代後期を中心とする遺構は、A区南寄りからB区にかけて展開していた。今回の調査で確認した遺構のうち９割以上が相当する。後期の遺構は160SXとした集石遺構



調査区位置図（S=1/1000）

160SX　を核とした配置が想定される。山側の頂点に位置する160SXは長軸（東西）７m、短軸（南北）４mの範囲に巨礫および大礫が集積していた。そのうち３×２m前後の範囲は、平石を選んで平らに配置した箇所が確認できた。礫を取り除いて、下位の遺構を確認したところ、４ヶ所の径2m前後の浅い円形遺構を検出したが、炉を付属する竪穴建物ではなかった。

縄文時代後期を中心とする遺構群は、炉を付属する竪穴建物が確認できなかった。これはマサノ沢遺跡の特筆すべき点である。焼土あるいは被熱した礫は点在するが、石囲炉や被熱した礫が詰まった集石遺構などはなかった。むしろ焼土や炭化物に伴って細片化した土器を包蔵する固く締まった堆積層が160SX周辺に広がっていた。この堆積層は整地層の可能性もある。

竪穴建物のない大小合わせて400を超える円形および長楕円形からなる遺構群はどのような性格の遺構であったのか。A区南寄りの遺構検出時に４m前後のやや不定形な円形

094SX　プラン094SXを検出した。当初は長楕円形の土坑からなる一部基盤層が持ち上がったいわゆる風倒木痕を想定した。慎重を期し、十文字にトレンチを入れて土層断面確認したところ、堆積の中位から下位にかけて箱形の断面形と、この断面形の内法に沿う平石を検出した。そこで、大型土坑内を全体に掘り下げ、断面箱形の平面プランを探った。結果、190SKと191SKの２箇所で長方形のプランを検出した。長方形の土坑をさらに掘削すると平石を

190SK　プランの内法に沿った礫が確認できた。190SKは短辺も長辺も礫を立てて配置した状態で出土し、191SKはほぼ掘り方の輪郭に沿って礫が配置されていた。土坑の上面および底面に礫は配置されていなかった。その規模は長軸方向1.5m、短軸方向0.5mを測る。当初の円形プランの段階から二つの土坑は確認できなかった。構築順を推定すると、（１）大型の円形土坑を掘削、（２）礫を配置し長方形の土坑を２基設営、（３）その後上位を覆う。縄文

時代後期に所属する礫を長方形配置した土坑は愛知県内では初例である。県外周辺の類似例としては、長野県飯田市中村中平遺跡などがある。中村中平遺跡は河岸段丘上に縄文時代後晩期の配石あるいは集石を伴う墓壙が多数確認されている。また人骨と獣骨がこれらの墓壙に伴って大量に出土している。

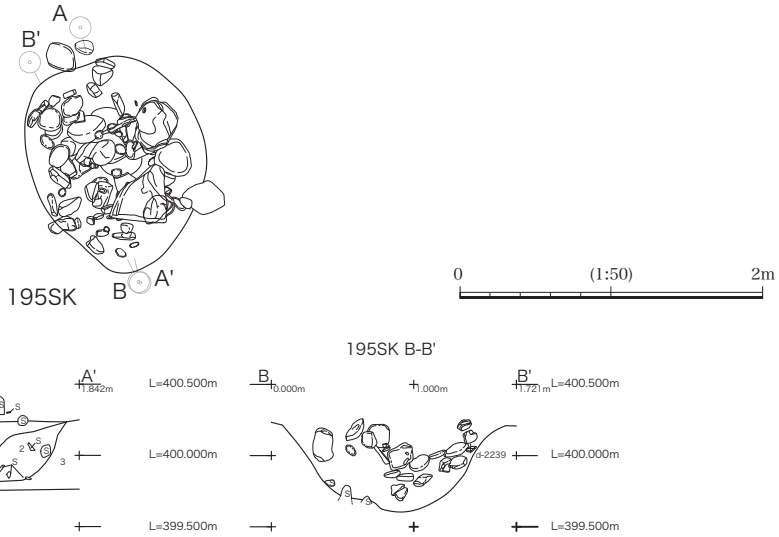
１９５ＳＸ　マサノ沢遺跡の礫を伴った遺構はその後20例を超えた。そのうち、195SKは注目できる。土坑の掘り方に平石を貼り付けるように配置し、さらに土坑内に大礫が集石している。遺物は細片化した多量の土器片とともに大中小３点の岩偶・岩版類が出土した。195SKの調査以降新たな見識は、骨片がＡ区南寄りの遺構群を中心に見つかったことである。さきに示したマサノ沢遺跡の中核遺構である集石遺構160SXから、礫の輪郭を精査する作業中に骨片がすでに見つかっていた。160SXは広い範囲であるため、堆積状況などに新しい堆積層の混入も考慮しておく必要があった。ところが、195SK例は1m前後の規模の土坑であるから、検出から掘削にいたるまで混入の可能性が低い。しかも、骨片として認識できる数も多い。その後、礫を伴う遺構以外にも確認され、骨片はＡ区南側の調査区を中心に1000点を超える資料数となった。骨片は現在同定中であるが、ほぼ全ての骨片が焼骨であり、部位が判明する可能性の骨片もあり、人骨だけでなく獣骨なども予想される。

そのほか、遺構配置で注目されるのは配石遺構と大型土坑の組み合わせがいくつか指摘できる点である。094SX＋190SK＋191SKもその一つであるが、基本的には360SX＋357SKのように、2m前後の土坑に１×0.5m前後の配石遺構がセットになる場合が多い。当然、土坑の大多数はセットにならない単独の大型土坑と長楕円形の遺構である。

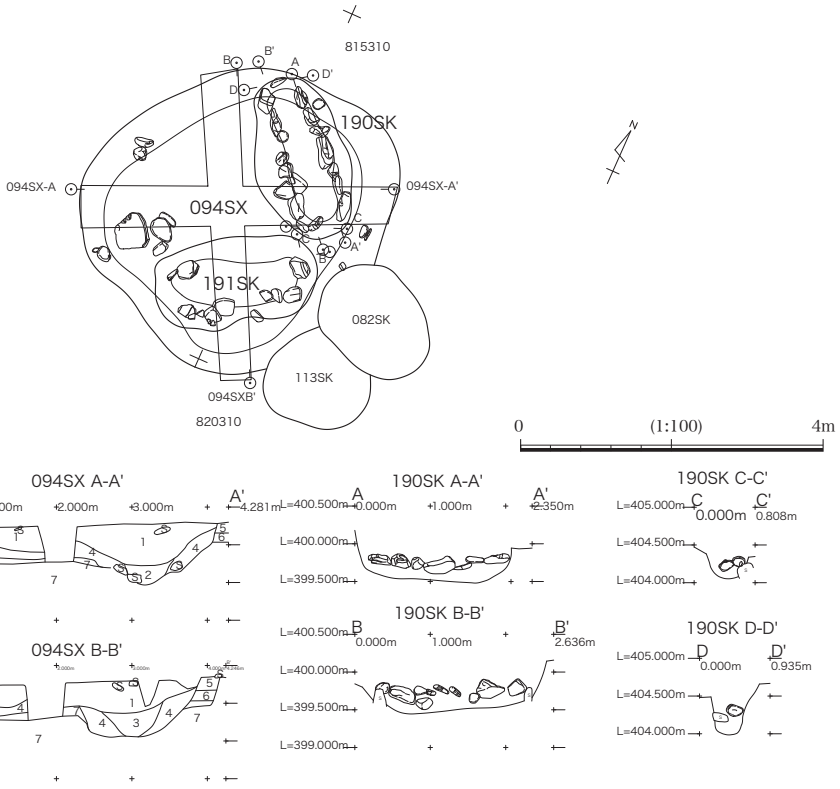
１７Ｂ区　Ｂ区はＡ区の南を中心に遺構が展開している。調査前の水田造成時に削平が進み、遺構がないと予想していたところ、地形的にはＡ区より低くなる旧地形であったため、耕作土および床土を除去すると長楕円形を中心に、円形の大型土坑も確認された。骨片を伴う遺構はＡ区寄りの遺構に見られたが、それ以外はほとんど確認できなかった。Ａ区は大～巨礫が配石墓や土坑などの遺構に伴うほか、160SXをはじめ配石・集積の密度が高かった。一方Ｂ区は集石など遺構に伴う礫群は遺構全体の半数近くあるが、遺構外の集石は調査区西側の川側一部を除いてほとんどなかった。また、Ａ区南側に比べ遺構の密度も低い。今後の検討課題だが、Ａ区とＢ区に遺構群の性格が異なる可能性がある。それは、おそらく集石遺構160SXに隣接する遺構群とそうでない遺構群に相違点があるのかもしれない。

土器棺墓　弥生時代前期を中心とする遺構は、おもに土器棺墓である。総数は６基、その内訳は古い時期から、五貫森式が３基、樫王式が１基、水神平式が２基である。186SKの２基並立した例を除く全てが単独の土器棺で、重複や隣接する事例はない。以下、個別に示す。

１８６ＳＫ　186SKはＡ区の北側と南側の間にあった水田造成に伴う石垣の直下で見つかった。そのため造成土が厚く堆積し、その下位に造成土に関連する不定形な落ち込みである091SXと059SXは重複して５ｍ前後の範囲に確認された。深さ0.5～１ｍ前後の059SXが外側に、深さ0.5m未満の091SXが内側に重なった中央からやや西寄りに186SKを検出した。２つの不定形な落ち込みの底面は凹凸があり、黄褐色礫層の基盤層が上位面近くまで高くなるところもある。186SKは基盤層が高くなる付近にあった。土坑は長軸1m、短軸0.5mを測りそのほぼ中央に土器の口縁部が１周する個体と割れた胴部片が１周する個体が接しながら南北に並存して見つかった。断ち割り掘削により、北側の土器は口縁部を下位に胴部上半までの倒立した状態、南側の土器は口縁部を上位に胴部下半までの正位に設置された状態で確認された。いずれも底部付近は欠損しており、口縁部から胴部までの筒状であっ



1. 10YR3/3 暗褐色中粒砂質細粒砂層　黒褐色細粒砂大ブロックを多く含み、細礫少量含み、大礫の亜角礫を多く含む。遺物を含む。195SK埋土。
2. 10YR3/3 暗褐色中粒砂質細粒砂層　黄褐色細粒砂大ブロックを多く含み、細礫含み、中礫の亜角礫を含む。遺物を含む。195SK埋土。
3. 10YR5/6 黄褐色中粒砂質細粒砂層　暗褐色細粒砂大ブロックを非常に多く含み、細礫含む。漸移層。トレンチ4セクション4層に対応。基盤。
4. 10YR5/6 黄褐色細粒砂質中粒砂層　細礫含み、大礫の亜角礫を非常に多く含む。北壁セクション10層に対応。基盤。



1. 10YR3/2 黒褐色細粒砂質中粒砂層　褐色細粒砂大ブロックを含み、細礫含み、大礫の亜角礫を少量含む。遺物を含む。094SX埋土。
2. 10YR3/2 黒褐色細粒砂質中粒砂層　褐色細粒砂大ブロックを含み、細礫含み、大礫の亜角礫を少量含む。遺物を含む。190SK埋土。
3. 10YR3/2 黒褐色細粒砂質中粒砂層　褐色細粒砂大ブロックを含み、細礫含み、大礫の亜角礫を少量含む。遺物を含む。191SK埋土。
4. 10YR3/3 暗褐色細粒砂質中粒砂層　黒褐色細粒砂ブロックを含み、黄褐色中粒砂ブロックを含み、細礫含む。094SX埋土。
5. 10YR4/4 褐色中粒砂質細粒砂層　細礫含む。トレンチ4セクション3層に対応。
6. 10YR5/6 黄褐色粗粒砂質中粒砂層　暗褐色細粒砂大ブロックを非常に多く含み、細礫含む。漸移層。トレンチ4セクション4層に対応。
7. 10YR5/6 黄褐色粗粒砂質中粒砂層　細礫含む。北壁セクション7層に対応。

縄文時代後期遺構詳細図

た。北側の土器は口縁部が無突帯、頸胴部界は緩やかな有段、幅の狭い頸部に横方向のナデ調整、胴部は左斜め上がりの条痕が見られる。南側の土器は口縁直下に刻目突帯が１周めぐり、頸胴部界は有段となり幅の狭い頸部に横方向の条痕が施され、胴部は左斜め上がりの条痕が見られる。いずれも五貫森式古段階の特徴を示す土器である。北側の土器は胴部上半までしか残存していなかったが、おそらく設置後に上位部分が削平された時に土器内部に同一個体の胴部片が入り込んだと推定できる。南側の土器の内部は小礫のほか、石鏃や剥片石器などが確認できた。186SKの例は初見である。それぞれが単独に出土する例はあるが、今回のように同時期の正位と倒立の土器が２個体並立して設置されている例は今後検討を要する。現状は両者ともに土器棺墓の１例として取り上げておく。

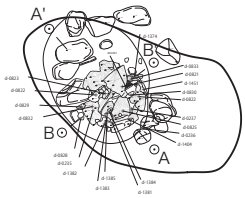
０９５ＳＫ　095SKは調査区西壁で検出した北側へ傾く斜位に設置された土器棺墓である。縄文時代後期の大型土坑に重複する土坑で断面観察の結果、50cm前後の円形土坑に土器棺が設置されていたと判断した。蓋になる土器や礫はなかった。一方、底部付近に２～３重に土器片を用いて覆っていた。さらに底部は打ち欠きで欠損していたが、破片で底部を覆っていた。つまり、棺身の底部付近に土器片を用いて塞いでいることがわかった。なお、棺身内部の埋土から大破片の土器が数点出土し、これらが棺身の蓋であったかは検討を要する。棺身は口縁端部が丸く凸状になり体部に粗めの斜位条痕を施す五貫森式の深鉢である。

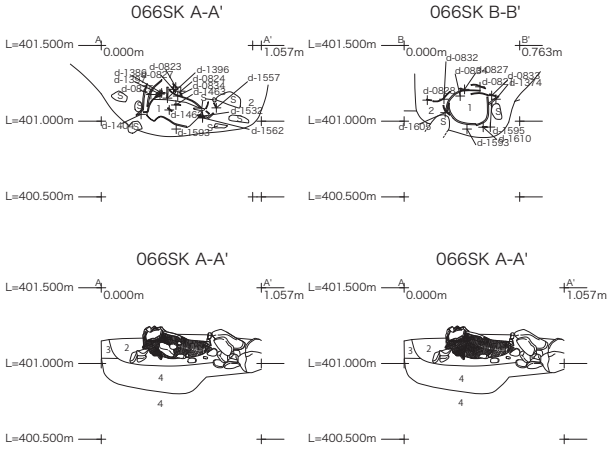
４２７ＳＫ　427SKは浅く整った横方向の条痕深鉢を棺身とする立位の土器棺墓である。土坑の掘り方は棺身より少し大きい50cm前後の楕円形である。検出時、土器棺の口縁直上に半周にわたり礫を配置していた。これら礫の直下あるいは周辺に粗い横方向の二又工具による条痕深鉢片が点在していた。土器棺を断ち割って掘削を進めると、正位の口縁から底部付近までの土器が北側１/３程度崩れているものの、良好な状態を保ちながら設置されていた。口縁部は外反せず、端部が凹線状にくぼむ強いなでが施されている。崩れた部分には検出時に一部確認していた土器片と同一個体の条痕深鉢片が大破片で含まれていた。これらは棺身の上に設置された土器片蓋と思われる。棺身は底部が打ち欠かれ欠損している。棺身は筒状に設置され、その下位には、蓋と同一個体とみられる大破片を敷いていた。これら土器の特徴から樫王式の土器である。

０６６ＳＫ　066SKはＡ区北側の043SXに南側で重複する長軸1.5m短軸0.8mを測る土坑の中央に設置された重厚に蓋を配した横位の土器棺墓である。検出当初は043SXの竪穴状遺構に関連する土器集積と考えた。大型土器片が折り重なって確認され、遺構の輪郭も不明瞭であった。そこで、043SX内を下位に掘り進め再検出したところ、土坑の輪郭がつかめ、043SXと別遺構と判断した。折り重なる上位の土器片を外して行くと、北西側に口縁部、南東側に底部を軸にして設置した深鉢が棺身であるとわかった。口縁部側は別個体の底部欠損の深鉢が倒立した状態で、少なくとも３個体分を重ねて設置していた。一方、底部側は底部を打ち欠き欠損させ、その部分を別個体の胴部片で覆っている。棺身の口縁部直下に、別個体の口縁から底部まで残存する1/4周の大破片を敷いて棺身の口縁部を少し持ち上げている。棺身に隣接して中～大礫を用いて固定し設置している。棺身を含めて３個体以上の個体を用いて構成された土器棺墓はすべて口縁部が外反する二又工具で口縁直下から底部付近まで縦位羽状条痕の深鉢である。口縁端部に押引や条線を加える違いはあるが、水神平式深鉢である。

１４３ＳＫ　143SKは縄文時代後期の土坑群と重複する長軸1.5×短軸１mを測る楕円形の土坑に、横位に設置された合口の土器棺墓である。調査区を横断するトレンチ９掘削時に確認され、

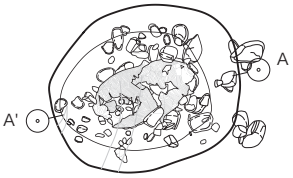
066SK

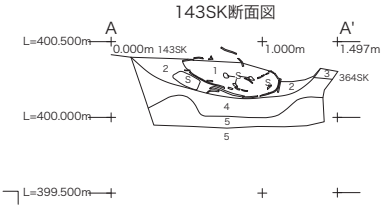


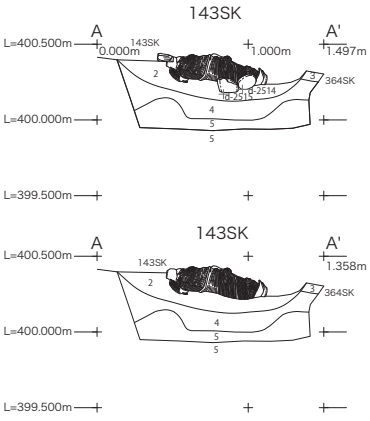


1. 10YR3/2 黒褐色中粒砂質細粒砂層　褐色細粒砂ブロックを少量含み、細礫含む。遺物を含む。
2. 10YR3/3 暗褐色極細粒砂質細粒砂層　黄褐色中粒砂小ブロックを含み、細礫少量含み、大礫の亜角礫を多く含む。遺物を含む。
3. 10YR5/6 黄褐色中粒砂質細粒砂層　褐色中粒砂大ブロックを多く含み、細礫多く含む。漸移層。トレンチ4セクション4層に対応。基盤。
4. 10YR5/6 黄褐色粗粒砂質極粗粒砂層　細礫を非常に多く含み、大礫の亜角礫を非常に多く含む。北壁セクション10層に対応。基盤。

143SK

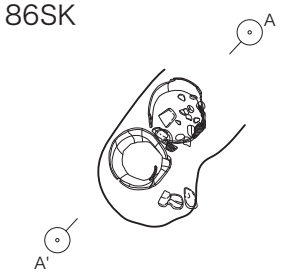


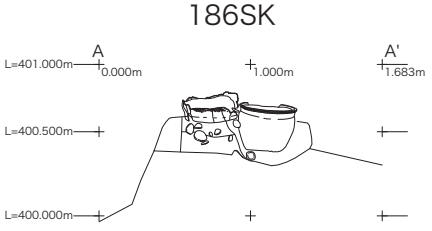




1. 10YR2/2 黒褐色細粒砂質極細粒砂層　細礫少量含む。遺物を含む。143SK埋土。
2. 10YR2/2 黒褐色細粒砂質極細粒砂層　細礫少量含み、中礫の亜角礫を多く含む。遺物を含む。143SK埋土。
3. 10YR3/3 暗褐色極細粒砂質細粒砂層　黒褐色細粒砂ブロックを含み、細礫含み、中礫の亜角礫を少量含む。遺物を含む。364SK埋土。
4. 10YR3/3 暗褐色極細粒砂質細粒砂層　褐色細粒砂ブロックを含み、細礫少量含み、中礫の亜円礫を少量含む。遺物を含む。別遺構埋土か。
5. 10YR5/6 黄褐色中粒砂質細粒砂層　暗褐色細粒砂ブロックを含み、細礫含み、中礫の亜角礫を少量含む。漸移層。トレンチ4セクション4層に対応。

186SK





1. 10YR2/2 黒褐色粗粒砂質中粒砂層　細礫多く含み、中礫の亜円礫を多く含む。遺物を含む。186SK土器(北)内面埋土。
2. 10YR2/2 黒褐色粗粒砂質中粒砂層　細礫多く含み、中礫の亜円礫を多く含む。遺物を含む。186SK土器(南)内面埋土。
3. 10YR2/2 黒褐色細粒砂質中粒砂層　細礫多く含み、中礫の亜角礫を含む。遺物を含む。186SK埋土。
4. 10YR2/2 黒褐色粘土質シルト層　褐色シルト大ブロックを含み、細礫少量含み、大礫の亜角礫を多く含む。炭化物を極少量含む。遺物を含む。091SX埋土。
5. 10YR5/6 黄褐色粗粒砂質極粗粒砂層　細礫非常に多く含み、大礫の亜角礫を非常に多く含む。北壁セクション10層に対応。基盤。

0　(1:50)　2m

縄文時代末～弥生時代前期遺構詳細図（1:50）

この時点で上位に礫の設置や盛土の痕跡はなかった。遺構検出時は埋土が比較的わかりやすく楕円形の土坑を検出した。土器棺はこの土坑の中心にあった。土器棺の周りには中～大礫が棺に接し点在していた。断ち割りの断面観察時も礫が土器棺の下位に接して点在していたことから、棺身を固定するために設置された礫と考えた。側面観から北側の土器が南側の土器の中に入り込んでいることがわかった。土器を取り上げながら内部の状況から、北側の土器は外反する部分の口縁部を打ち欠いていることがわかった。さらに北側の土器を持ち上げるために打ち欠いた口縁部片を底部付近と合口部周辺の直下に設置していた。つまり、横位ではあるが片側をやや持ち上げた斜位の状態であった。これら２個体の土器は水神平式で、口縁部が外反する外面に二又工具による縦羽状条痕深鉢であった。

土器棺墓のほかに、土坑、竪穴状遺構などが数カ所確認されたが、縄文時代晩期末から弥生時代前期の遺構は、縄文時代後期の遺構とくらべ１割に満たない。

ま と め

以上、縄文時代後期の墓地に関連する石棺墓・配石墓および大型土坑を中心に調査の経過を交えて示した。続いて、縄文時代晩期末から弥生時代前期の土器棺墓を中心に個々の土器棺墓の設置方法を加えて示した。マサノ沢遺跡のおもな遺構群はこれら２つの時期を中心とする墓地関連遺構である。

縄文時代後期について、調査段階では竪穴建物など居住地に関連する遺構が確認できなかった。竪穴状遺構に付属するピットはいくつか存在したが、炉跡を付帯する竪穴建物はなかった。柱痕をもつピットはいくつか確認したが、調査時に建物の柱として配置を認定するにはいたらなかった。

大型土坑の重複に特徴があった。大きく重複するのではなく、遺構の縁辺が重なる程度の重複が多く、それが各遺構数カ所ある。これらの特徴的な重複は大型土坑を掘削するときに、直前の大型土坑の存在を意識していたと考えたい。つまり、墓壙を構築していくときに規範があったと想定する。今後は遺構の重複関係を精査して規範の是非を検証していきたい。

弥生時代前期は６基の土器棺とそのほか土坑を数カ所確認した。縄文時代後期と同様に炉跡を付帯する竪穴建物はなかった。土器棺を６基確認したが、一ヶ所に集中しているのではなく、散在して分布している。地形的な側面からみると、段丘の縁辺に設置されていることは指摘できるが、規則的に並んでいるとはいえない。５０基程度まとまっていれば大規模な墓地あるいは集落も想定できる。マサノ沢遺跡の土器棺墓は小規模な墓地である。

出土遺物の時期は長期間にわたる。土器を中心に示すと、縄文時代中期後半から弥生時代後期まで、さらに近代の陶磁器もある。これらのうち、遺構の中心となる時期の前後が数量的には多い。

特筆すべき遺物としては、ハート形土偶など縄文時代後期を中心とする祭祀具であろう。

ハート形土偶は、東北南部から北関東を中心に分布する土偶である。県内はもちろん、東海地域の確認例はない。持ち込まれた土偶だとすれば遠隔地交流の一端を示す好資料である。また、同一土坑内から線刻をもつ岩偶・岩版類も出土している。時期比定や使われ方の検討に布石となった。

岩偶・岩版類は有溝石錘、切目石錘を含めると20点以上出土している。なかでも、さきに示した配石墓195SXから３点まとまって出土した岩偶・岩版類は同じ形態の大中小であり注目しておきたい。

（永井宏幸）



マサノ沢遺跡 2017 年度遺構全体図（1:300）



160SX 周辺



186SK 断ち割り状況



094SX



427SK 断ち割り状況



190SK



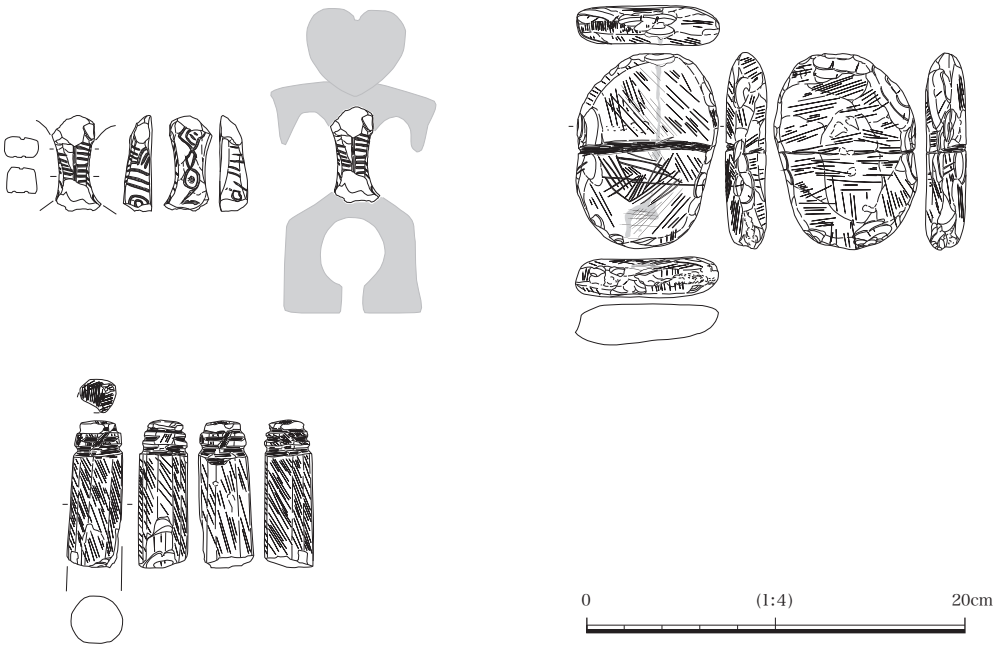
066SK 断ち割り状況



195SK



143SK 断ち割り状況



マサノ沢遺跡遺物実測図



179SK 遺物出土状況



石棒・石刀類出土状況



岩偶・岩版類 (195SK)



有溝石錘 (426SK)

ふもんじきゅうけいだい 普門寺旧境内（本発掘調査B）

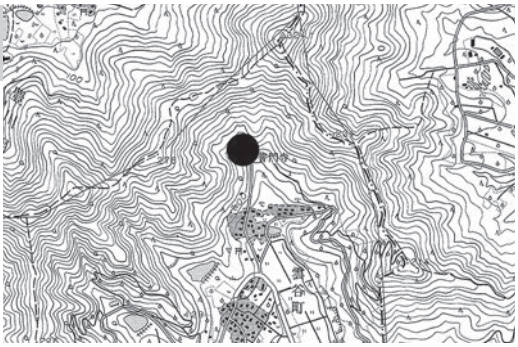
所　在　地　豊橋市雲谷町字ナベ山下７ほか
（北緯34度44分40秒　東経137度28分10秒）

調 査 理 由　予防治山事業・小規模治山事業

調 査 期 間　平成29年５月～平成30年１月

調 査 面 積　300㎡

担　当　者　酒井俊彦・早野浩二



調査地点（1/2.5万「二川」）

調査の経過　発掘調査は予防治山事業・小規模治山事業に伴う事前調査として、愛知県農林水産部森林保全課東三河農林水産事務所から愛知県教育委員会を通じた委託を受けて実施した。普門寺旧境内は中世前期を主体とする山寺遺構で、愛知大学による分布調査、豊橋市教育委員会による測量調査・分布調査、発掘調査の結果、二つの旧本堂とそれに付随する多数の平場群、中世墓群、経塚、池等から構成されることが判明している。調査区は丘陵下位（現本堂の下位）の平場に設定した17Ａ区（調査面積170㎡）、東向きの尾根（現本堂の上位）に展開する平場群）豊橋市教育委員会によるＦ地区）中の下位の平場（Ｆ－1・Ｆ－2）に設定した17Ｂ区（調査面積130㎡）である。調査期間は17Ａ区が平成29年５月から６月、17Ｂ区が平成29年11月から平成30年１月である。

立地と環境　普門寺旧境内は愛知県と静岡県の県境でもある弓張山地に形成された谷の奥部に立地する。普門寺旧境内の遺構が展開するのは現普門寺客殿裏の標高100mから260mの尾根上である。なお、17Ａ区周囲の標高は約110m、17Ｂ区周囲の標高は約130mである。普門寺は船形山普門寺と称する高野山真言宗の寺院で、市内随一の豊かな歴史や文化財を誇り、近年は紅葉の名所としても親しまれている。

調査の概要

１７Ａ区　発掘調査の結果、調査前に確認されていた平場001SXに加え、さらに上位の丘陵斜面にも平場002SXを確認した。これらの平場とその周辺において、上位の平場と下位の平場を通行するために開削した通路と思われるような造作以外、明確な遺構は確認されなかった。平場や斜面の堆積層中には近世以降の遺物を包含するが、戦国時代の遺物も散見された。また、沢に面した斜面の堆積層中からは、渥美産山茶碗・甕・子持器台または仏供等、瓦に加えて、土師器皿がまとまって出土した。

１７Ｂ区　上位の平場006SX（豊橋市教育委員会によるＦ地区のＦ―２）は長さ16.0m、最大幅6.5mで、チャートの岩塊を南端とする。平場006SXはその南端付近を発掘調査したのみで、明確な遺構は確認されなかったが、平場周辺や斜面の堆積層中からは、渥美産山茶碗・甕等、中世前期の遺物に加えて、古瀬戸後期の擂鉢、土師器内耳鍋、青磁碗等、中世後期から戦国時代の遺物がまとまって出土した。

下位の平場007SX（豊橋市教育委員会によるＦ地区のＦ―１）は長さ15.0m、最大幅5.0mで、調査前から「墓」ともされる石積みが露呈していた。墓の可能性がある石積み008SZは東向きの緩斜面に設置され、上段は長軸1.50m・短軸1.30m、下段は一辺約2.30mの規模である。石積みは周囲に算出するチャートと砂岩を利用して方形の石列を構築し、石列内と背面の緩斜面には拳大程度の礫が集積されていた。集積された礫群中からは、銭貨（寛永通宝）、鉄釘等が出土した。

沢に続く斜面009NRは堆積層中に中世前期を主体とする遺物を包含し、渥美産山茶碗・

甕・蓮弁文壷・刻文壷等が多く出土した。その他、沢付近から出土した特徴的な遺物として、唐草文をあしらった青銅製飾金具、石硯等がある。

ま と め　今回の発掘調査の結果、普門寺旧境内の遺構は現本堂上位の丘陵を主体として濃密に展開することが改めて明らかとなった。今後、出土遺物の詳細な分析を通じて、平場の時期、機能等、その利用実態が明らかになることが期待される。また、17Ｂ区の石積み008SZは、17世紀後半以降の普門寺の復興と山麓への境内移転に関連する可能性も考慮される。

（早野浩二）

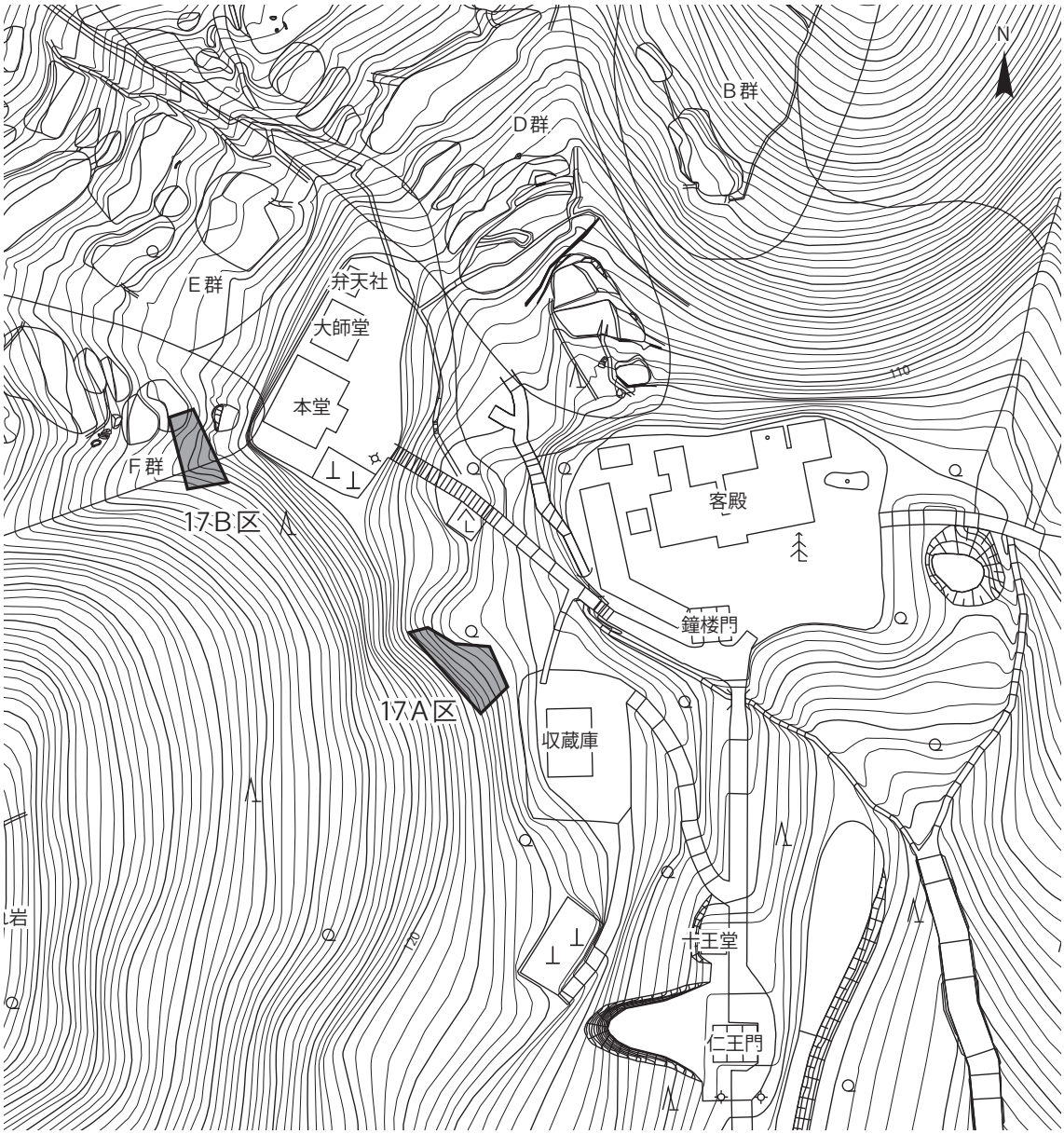


図１　調査区配置図（S=1:5000）



普門寺旧境内遠景



17B 区全景



17A 区全景



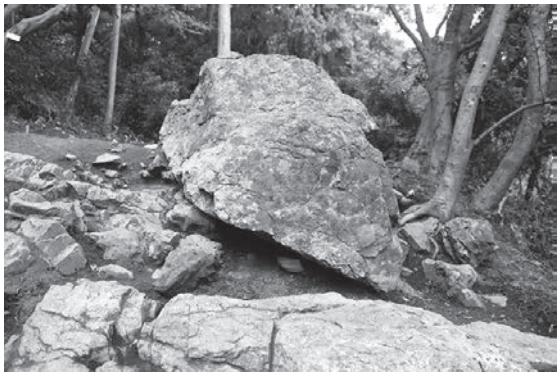
17 A区の通路状遺構



17A 区 遺物出土状況 (山茶碗・土師器皿）



7 A区遺物出土状況（子持器台または仏供）



17B 区 平場 006SX 周辺遺物出土状況 (山茶碗等）



17B 区 沢 009NR 遺物出土状況 (石硯）



17B 区 石積み 008SZ 検出状況（南東から）



17B 区 石積み 008SZ 全景 (東から）

III. 刊行報告書抄録

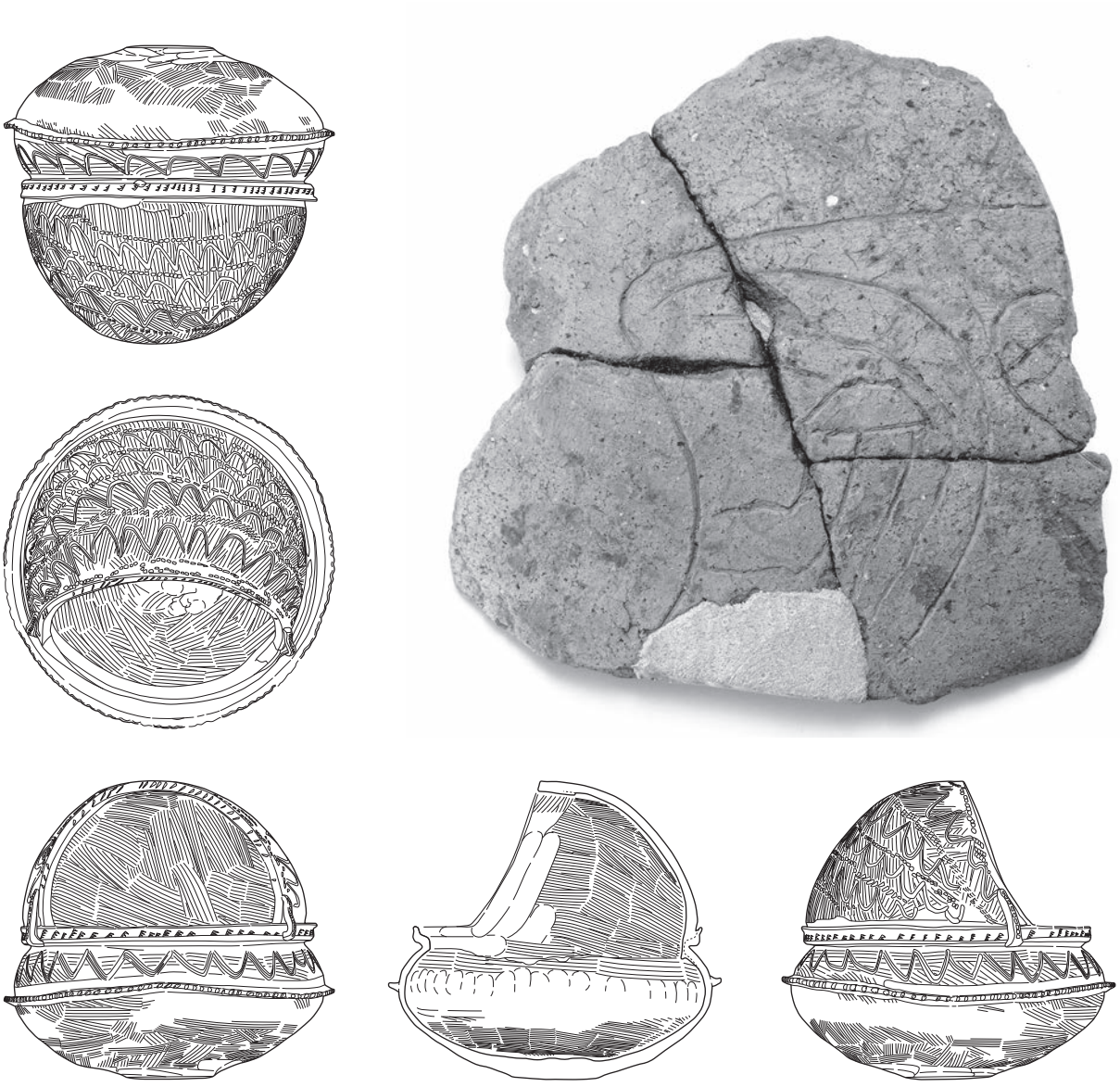
第210集 宮下遺跡・下懸遺跡II・五反田遺跡・惣作遺跡III

安城市東部の碧海台地の崖下を南北に流れる鹿乗川流域には多くの遺跡が形成されるが、本報告書はそのうちの宮下遺跡・下懸遺跡・五反田遺跡・惣作遺跡の４遺跡の発掘調査の報告書である。

調査は平成21年度から平成27年度の間、６カ年にわたって行われ、総調査面積は10000㎡、総出土コンテナ数は143箱である。

宮下遺跡では古墳時代前期の溝群、下懸遺跡では古墳時代初頭～前期の集落や、古墳時代～古代の流路、五反田遺跡では方形周溝墓、惣作遺跡では古代の集落や古墳時代～古代の流路を確認している。また注目される遺物としては、下懸遺跡から出土した古代の「文書木簡」や五反田遺跡出土の人面文が線刻された土器片や手焙り形土器・ガラス玉、惣作遺跡から出土した刀把装具があげられる。

（宮腰健司）



五反田遺跡出土の人面線刻土器と手焙り形土器

報告書抄録

ふりがな	みやした　しもかけ　ごたんだ　そうさく
書名	宮下遺跡・下懸遺跡II・五反田遺跡・惣作遺跡III
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第210集
編著者名	宮腰健司・松田訓・樋上昇・永井邦仁
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県弥富市前ヶ須町字野方802-24
発行年	西暦2018年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
ひめした 宮下	あんじょうしさくらいちょうこやしろ 安城市桜井町小社	23213	540105	34°55′30″	137°06′01″	2011年9月 ～2014年1月	280㎡	中小河川改良工事(鹿乗川)
しもかけ 下懸	あんじょうしおがわちょうむかいだ 安城市小川町向田		540127	34°54′20″	137°05′43″	2009年11月 ～2015年12月	4480㎡	床上浸水対策特別緊急事業(鹿乗川)
ごたんだ 五反田	あんじょうしおがいちょうごたんだ 安城市小川町五反田		540130	34°54′13″	137°05′43″	2010年7月 ～2013年6月	2710㎡	交付金事業
そうさく 惣作	あんじょうしきどちょうそうさく 安城市木戸町惣作		540132	34°54′00″	137°05′38″	2011年11月 ～2012年12月	2530㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
宮下遺跡	集落	古墳時代	竪穴建物・溝・土坑	土師器	
下懸遺跡	集落	古墳時代 ～室町時代	竪穴建物・溝・土坑 流路	縄文土器・弥生土器 土師器・須恵器・灰釉陶器 山茶碗・石製品・木製品	線刻土器 墨書土器 文書木簡
五反田遺跡	墓・集落	古墳時代初頭 ～室町時代	方形方形周溝墓・溝 土坑	土師器・ガラス小玉 管玉・勾玉	人面文線刻土器 加飾手焙り形土器 墨書土器
惣作遺跡	集落	古墳時代 ～江戸時代	竪穴建物・溝・土坑 流路	土師器・木製品	刀把装具

文書番号

発掘届出　(宮下遺跡：23埋セ第3号・2011.4.1、25埋セ第86号・2013.10.2)
(下懸遺跡：21埋セ第64号・2009.9.29、25埋セ第8号・2013.4.11、25埋セ第84号・2013.10.2、25埋セ第154号・2014.3.25、27埋セ第75号・2015.9.17)
(五反田遺跡：22埋セ第29号・2010.4.22、25埋セ第7号・2013.4.11)　(惣作遺跡：23埋セ第73号・2011.8.29、24埋セ第98号・2012.10.12)
通知　(宮下遺跡：23教生第133号・2011.4.14、25教生第1981号・2013.10.18)
(下懸遺跡：21教生第1436号・2009.10.9、25教生第242号・2013.4.24、25教生第1972号・2013.10.18、26教生第18号・2011.4.4、27教生第1742号・2015.9.29)
(五反田遺跡：22教生第290号・2010.5.7、25教生第244号・2013.4.24)　(惣作遺跡：23教生第1562号・2011.10.11、24教生第2237号・2012.10.17)
終了届・保管証・発見届　(宮下遺跡：23埋セ第87号・2011.9.22、25埋セ第120号・2014.1.14)
(下懸遺跡：21埋セ第145号・2010.3.12、25埋セ第90号・2013.10.21、25埋セ第144号・2014.3.6、26埋セ第54号・2014.7.9、27埋セ第105号・2015.12.16)
(五反田遺跡：22埋セ第181号・2010.11.2、25埋セ第41号・2013.6.21)　(惣作遺跡：23埋セ第176号・2012.3.23、24埋セ第104号・2012.12.12)
監査結果通知　(宮下遺跡：23教生第1767号・2011.11.9、25教生第2749号・2014.1.28)
(下懸遺跡：22教生第543号・2010.6.11、25教生第2142号・2013.11.7、25教生第3312号・2014.3.25、26教生第1248号・2014.8.26、27教生第2617号・2016.1.13)
(五反田遺跡：22教生第2093号・2010.12.24、25教生第2142号・2013.11.7)　(惣作遺跡：24教生第240号・2012.5.2、24教生第2511号・2013.1.19)

要約	鹿乗川流域遺跡群は標高7m前後の沖積低地に立地する。この遺跡群に含まれる4ヶ所の遺跡、総面積10000㎡を、6ヶ年かけ調査を行なった。その結果古墳時代と古代の集落や、古墳時代の方形方形周溝墓群、古墳時代から古代まで続く流路の痕を確認している。また中世の溝群も出土している。遺物としては、古墳時代初頭の人面線刻土器や6世紀末頃の木製刀把装具、古代の文書木簡が注目される。

IV. 普及・公開活動の記録

平成29年度　埋蔵文化財展

1　目的と概要

愛知県埋蔵文化財センターの発掘調査により出土した資料を広く公開するとともに、歴史講座や体験プログラムなど多彩な企画を通じて、県民の埋蔵文化財に対する理解を深め、文化財保護意識の向上を図ることを目的とした。

2017年度は、春に愛知県埋蔵文化財調査センターと共催し、新出土品展と重要文化財の特別公開を行った。秋には愛知県埋蔵文化財調査センター２階の常設展の展示物の入れ替えを行った。展示物の入れ替えに伴い、展示解説やワークショップ、バックヤードツアーなどの関連行事を行った。また4回の連続歴史講座も実施した。12月には、名古屋市博物館において、当センター・名古屋市博物館の2者が主催する考古学セミナー「あいちの考古学2017」を行った。他に公益財団愛知県教育・スポーツ振興財団の関連施設である愛知県青年の家において講座をおこなった。

2　春の埋蔵文化財展「やとみ新発見展！」

1）会場：愛知県埋蔵文化財調査センター

2）会期

平成29年4月1日（土）から４月16日（日）

3）開催趣旨

弥富市にある「愛知県埋蔵文化財調査センター」にて、「やとみ新発見展（しんはっけんでん）！」と題して、昨年度の発掘調査成果について、展示解説を実施。入館無料。

4）内容

○埋文桜ニュース発行

○展示

２階 資料管理閲覧室

「考古楽さんぽ」展

２階 収蔵庫C

「新出土品展2017」

「土器クロニクル」展

１階 ロビー　２階 廊下 パネル展示

配布資料：埋文桜ニュース（遺跡の概要説明）

ペーパークラフト（パレス土器）

遺跡の紹介しおり

2017年			天気	小計
4月1日	（土）	縁日	雨のち曇	277
4月2日	（日）	縁日	晴れ	605
4月3日	（月）		晴れ	8
4月4日	（火）		晴れ	8
4月5日	（水）		晴れ	8
4月6日	（木）		曇りのち雨	217
4月7日	（金）	ウォーキング	曇り	16
4月8日	（土）	休館		
4月9日	（日）	休館		
4月10日	（月）		曇り	12
4月11日	（火）		雨	3
4月12日	（水）		晴れ	27
4月13日	（木）		晴れ	2
4月14日	（金）		晴れ	10
4月15日	（土）	蓮如祭・ウォーキング	雨のち晴れ	79
4月16日	（日）	蓮如祭	晴れ	6
			合計	1,278

▲春の埋文展　入館者数

5）考古楽縁日

埋蔵文化財展の開催初日２日間は、弥富市社会教育センターで「やとみ春まつり」が開催されるのに合わせ、埋蔵文化財および当センターの活動を周知する目的で「考古楽市2017」を実施。

○キネクトゲーム

＊参加者数：882名（２日間のべ）

6）その他

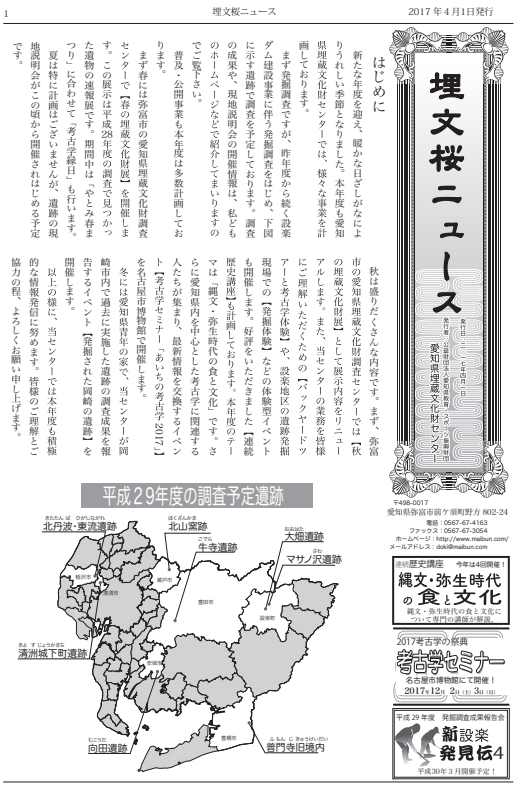
外部より開館していることがわかるよう、布製の垂れ幕や、ノボリを多数設置。また「やとみ春まつり」会場にて、チラシの配布を行う。期間中、愛知県埋蔵文化財調査センターが国指定重要文化財である「朝日遺跡」の遺物を展示。また縁日開催日には調査センターが輪投げと火起こしのイベントを開催した。

＊全期間中の来館者：1,278名

3　秋の埋蔵文化財展

常設展示を行っていた調査センター2階の資料管理閲覧室と収蔵庫Cの展示を、刷新し、関連事業として「連続歴史講座」、「バックヤードツアーと考古学体験」、「展示解説とワークショップ（埋文市民大学）」を実施した。

1）会場：愛知県埋蔵文化財調査センター　２階


1　埋文桜ニュース　2017年4月1日発行

はじめに

新たな年度を迎え、暖かな日ざしがなによりうれしい季節となりました。本年度も愛知県埋蔵文化財センターでは、様々な事業を計画しております。

まず発掘調査ですが、昨年度から続く設楽ダム建設事業に伴う発掘調査をはじめ、下図に示す遺跡で調査を予定しております。調査の成果や、現地説明会の開催情報は、私どものホームページなどで紹介してまいりますのでご覧ください。

普及・公開事業も本年度は多数計画しております。

まずは弥富市の愛知県埋蔵文化財調査センターで【春の埋蔵文化財展】を開催します。この展示平成28年度の調査で見つかった遺物の速報展です。期間中は「やとみ春まつり」に合わせて「考古楽縁日」も行います。

夏は特に計画はございませんが、遺跡の現地説明会がこの頃から開催されはじめる予定です。

秋は盛りだくさんな内容です。まず、弥富市の愛知県埋蔵文化財調査センターでは【秋の埋蔵文化財展】として展示内容をリニューアルします。また、当センターの業務を皆様にご理解いただくための【バックヤードツアーと考古学体験】や、設楽地区の遺跡発掘現場での【発掘体験】などの体験型イベントも開催します。好評をいただきました【連続歴史講座】も計画しております。本年度のテーマは「縄文・弥生時代の食と文化」です。さらに愛知県内を中心とした考古学に関連する人たちが集まり、最新情報を交換するイベント【考古学セミナー「あいちの考古学2017」】を名古屋市博物館で開催します。

冬には愛知県青年の家で、当センター岡崎市内で過去に実施した遺跡の調査成果を報告するイベント【発掘された岡崎の遺跡】を開催します。

以上の様に、当センターでは本年度も積極的な情報発信に努めます。皆様のご理解とご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

平成29年度の調査予定遺跡

北丹波・東流遺跡　北山窯跡　牛寺遺跡　大畑遺跡　マサノ沢遺跡　清洲城下町遺跡　向田遺跡　善門寺旧境内

埋文桜ニュース　愛知県埋蔵文化財センター

〒498-0017
愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24
電話：0567-67-4163
ファックス：0567-67-3054
ホームページ：http://www.maibun.com/
メールアドレス：dcki@maibun.com

春の歴史講座　今年は4回開催！
縄文・弥生時代の食と文化
縄文・弥生時代の食と文化について専門の講師が解説

2017考古学の祭典
考古学セミナー
名古屋市博物館にて開催！
2017年12月2日（土）・3日（日）

平成29年度　発掘調査成果報告会
新設楽発見伝4
平成30年3月開催予定！

▲「埋文桜ニュース」

2）内容：
　収蔵庫C:展示１
「食と文化の考古学　煮炊きの道具の変遷」
　資料管理閲覧室:展示2
「石の道具の歴史」
3）会期：平成29 年10 月7 日（土）～
　11月4日（土）
4）資料配布：展示会と関連行事の告知のため、県内外の複数箇所に資料配布を行った。県内市町村教育委員会、図書館、関連博物館・資料館、考古学関連大学、近隣住民への回覧板配布。上記の配布箇所に加え、今年度より新たに、近隣中学校、県内高等学校、近隣に所在する県立施設（水産試験場や土地改良区など）や駅、病院、銀行、商工会、コニュニティーバスなどへのポスター掲示を依頼した。新たな配布先を増やした結果、新たな来館者が増えたことが、アンケート結果から推測できた。

2017年　　秋の埋文展入館者数

	イベント	参加者数
10月7日　(土)	ワークショップ１（12名）	26
10月8日　(日)		
10月9日　(月)	ワークショップ２（７名）	18
10月10日　(火)		4
10月11日　(水)		11
10月12日　(木)		3
10月13日　(金)	バックヤードツアー（12名）・考古学体験	48
10月14日　(土)	連続歴史講座１（13名）	37
10月15日　(日)		
10月16日　(月)		8
10月17日　(火)		1
10月18日　(水)		3
10月19日　(木)		6
10月20日　(金)		10
10月21日　(土)	連続歴史講座２（18名）	35
10月22日　(日)		
10月23日　(月)		3
10月24日　(火)		0
10月25日　(水)		7
10月26日　(木)		24
10月27日　(金)	バックヤードツアー（7名）・考古学体験	28
10月28日　(土)	連続歴史講座３（17名）	29
10月29日　(日)		
10月30日　(月)		3
10月31日　(火)		8
11月1日　(水)		7
11月2日　(木)		5
11月3日　(金)	ワークショップ３（13名）	31
11月4日　(土)	連続歴史講座４（15名）	56
		411

▲秋の埋文展　入館者数





▲秋の埋文展　広告チラシ

周知の手段	居住地	性別	年齢	来館回数
駅ポスター	弥富市	女性	50-60	初めて
駅ポスター	三重県	男性	50-60	初めて
駅ポスター	大垣市		50-60	初めて
駅ポスター	桑名市	男性	30-40	初めて
チラシ	知多市	男性	70-	2回目
チラシ	弥富市	女性	50-60	初めて
チラシ	名古屋市	男性	50-60	初めて
チラシ	一宮市	男性	50-60	2回目
チラシ	可児市	男性	50-60	初めて
チラシ	滋賀県	男性	50-60	初めて
チラシ	台湾	女性	30-40	初めて
チラシ	飛島村	女性	10-20	初めて
バス内公告	弥富市		70-	初めて
HP	弥富市	男性	50-60	初めて
HP	名古屋市	男性	50-60	初めて
HP	鈴鹿市	男性	50-60	3回以上
HP	三重県	女性	30-40	3回以上
HP	豊明市	男性	10-20	3回以上
メール	名古屋市	男性	50-60	2回目
メール	みよし市	女性	10-20	初めて
新聞	一宮市		50-60	2回目
新聞	愛西市	男性	50-60	初めて
職員の案内	名古屋市		50-60	3回以上
たまたま	岡崎市	男性	30-40	3回以上
その他	木曽岬町	男性	30-40	2回目
友人	名古屋市	女性	30-40	初めて
親から	弥富市	女性	10-20	初めて
父	名古屋市	女性	10-20	初めて

▲秋の埋文展　アンケート結果



▲展示解説パンフレット

連続歴史講座　「縄文・弥生の食文化」

趣旨：秋の埋蔵文化財展に合わせた講座で、発掘調査により発見された資料から、狩猟・採集・耕作から調理に至る分野についての研究成果を一般の方向けではあるが、興味・関心を広げ、より深い理解を目指す。

会場：愛知県埋蔵文化財調査センター２階　研修室

内容：縄文から弥生にかけての食文化に関する考古学講座で、縄文時代の植物食について２回、弥生時代の動物利用について１回、弥生時代の農耕耕作について１回の計４回開催した。また講座形式が主体であるが、毎回の講座後半には、どんぐりを用いた体験や遺跡からの出土遺物の観察、復元道具の使用体験を行い、併せて講座担当者からの具体的な解説も行った。

今回の連続歴史講座では、縄文時代の植物食の第１回と第２回にどんぐりの粉砕処理（第１回）と粉砕したどんぐり粉から豆腐の作成（第２回）を行った。そのため、参加は事前の申し込み制とし、埋蔵文化財展チラシ配布、ホームページ公開などによる広報を行い、主に電話による受付をした。時間は毎回土曜日の午後１時から午後３時で、参加費は無料で行った。

第１回	10月14日（土）	「どんぐり食体験　前編」	川添 和暁
第２回	10月21日（土）	「どんぐり食体験　後編」	川添 和暁
第３回	10月28日（土）	「弥生時代の狩猟と漁撈」	宮腰 健司
第４回	11月4日（土）	「弥生時代の稲作と農具」	樋上 昇

参加者数

第１回 12名　　第２回 18名　　第３回 16名　　第４回 15名　　のべ 60名



▲10月14日



▲10月28日



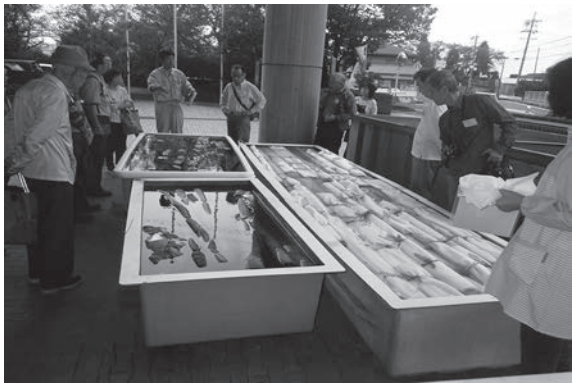
▲10月21日



▲11月4日

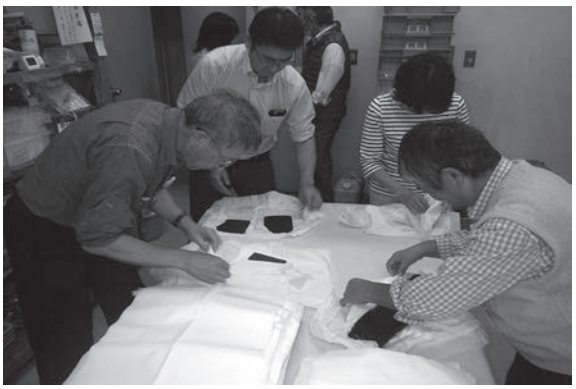
バックヤードツアーと考古学体験

目的：バックヤードツアーや考古学の体験イベントを通じて、当センターの事業を紹介する。
期間：10月13日（金）、10月27日（金）
　＊両日とも内容は同じ。参加費無料。事前登録制。当日参加可。
受付：バックヤードツアー　10時30分　考古学体験　13時
会場：愛知県埋蔵文化財調査センター
内容：バックヤードツアー、考古学体験ともに木製品に関する業務を紹介。鬼頭剛と酒井俊彦がツアー・ガイドを担当。
　○バックヤードツアー：出土した木製品がセンターに運ばれてから保存処理が施され（保存科学処理室）、特別収蔵庫に保管されるまでの作業工程を紹介。後半は樋上昇による木製品の解説。27日（金）にはクローバーTVの取材があり、ツアーの様子が放映された。
　○考古学体験：前半は堀木真美子による科学分析室にて顕微鏡を使用した樹種同定の解説。後半はポリエチレン・グリコール（PEG）含浸槽から保存処理が完了した木製品の取り出しと、PEGの拭き取り作業の体験。
参加者数：
　○バックヤードツアー
　　10月13日（金）-12名　　10月27日（金）-7名　　のべ参加者数　19名
　○考古学体験
　　10月13日（金）-14名　　10月27日（金）-13名　　のべ参加者数　27名
備考：バックヤードツアーは、日常の整理事業などを見学することから、平日開催とした。参加については、これまで申込不要としていたが、今年度については他の事業との関係から、事前申込が必要とした。このことにより参加者数が減少するかと思われたが、予想に反し、ほぼ10名以上の方々の参加があった。中には、参加のために勤務先での時間休を取ったという参加者もいた。事前申込制は、参加者も開催側も「開催の約束」という点で有効であった。また、今回は木製品をテーマとしたイベントであったが、参加者の中には土器類の体験・解説を強く希望される方もおり、急遽整理作業エリアで解説を行った。


▲木製品水槽の見学


▲特別収蔵庫の見学


▲樹種同定の解説


▲木製品PEGの拭き取り

ワークショップ「埋文市民大学」

1　埋文市民大学開校の目的

当センターでは、これまでにも多種の普及事業を行なってきた実績があり、着実に考古学および埋蔵文化財について関心を持って頂くように努めてきた。体験型講座とされるワークショップも同様であり、埋蔵文化財事業の理解に寄与してきた。

ただし、これまでの普及事業では、講師と受講者との関係が明確で、講師が教授するものがほとんであったと言える。

今回のワークショップの目的は、考古学における研究考察を体験するものである。実物の資料に触れて、そこからどのような情報を引き出すのかを自由に討論することを目指した。

2　埋文市民大学の内容

今年度は計３回を以下の内容で実施した。

１回目　10月7日（土）「焼き物について」
目標：焼き物の時代順を考える
（焼き方・胎土・作り方・形・文様などで、時代により変化していることを実感する。）

２回目　10月9日（月・祝）「石器について」
目標：石器の時代と使われ方を考える
（器種・形・作り方・使われ方などで、時代により変化していることを実感する。）

３回目　11月3日（金・祝）「骨・貝殻について」
目標：当日の食料事情を考える
（遺跡周囲がどのような環境の場所で、かつどのようなものを重点的に採取したかを実感する。）

１回２時間程度で、次第は以下の通りである。

１.職員紹介とワークショップの趣旨、遺物の取り扱いなど最低限の注意事項の説明。
参加者のグループ分け。【10分程度】

1グループ参加者4人程度にする。

2.まずは、何も誘導しない状態で、参加者独自で観察・考察を行う。【20分程度】

しばらく様子をみて、適切な頃合いに職員が観察ポイントを示す。

3.観察ポイントの指摘を受けて、さらに参加者が観察・考察をして、その結果をB紙にまとめる。【40分程度】

どうしてそのような結果になったのかの理由をできるだけ詳細に語っていただく。

4.分析結果をグループごとに発表する。【30分程度】

5.最後に、職員側から考古学的事実を示す。【20分程度】

3　埋文市民大学の成果と意義

参加者は、考古学的知識の問わずに参加しており、かつ限られた情報のみで観察し、自由に議論をして頂くことになる。従って、発表内容について理由と結論が論理的につながっていれば、今回のワークショップの第一の目的が達成されている。参加者が導き出した発表内容について、考古学的事実と異なっていても不正解にはならない。参加者においてはモノの観察からの検討という、能動的な結論を得る達成感がある。また、主催者側からすると、限られた情報のみでの論理的に導き出された発表には、研究上の参考になる意見を頂くこともある。一方で、会の最後に考古学的事実を伝えすることは忘れてはならず、発表内容の差異を参加者とともに共有することが重要となるのである。



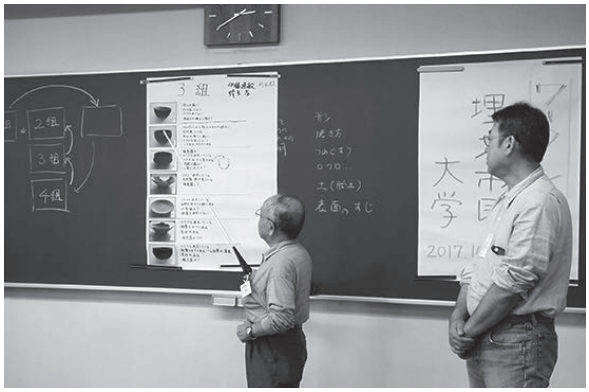
▲焼き物について　観察風景1



▲焼き物について　観察風景2



▲焼き物について　発表風景1



▲焼き物について　発表風景2



▲石器について　観察風景1



▲石器について　観察風景2



▲石器について　発表準備



▲石器について　発表風景

第6回　考古学セミナー「あいちの考古学2017」の記録

第６回考古学セミナー「あいちの考古学 2017」の記録

概　要：

考古学セミナー「あいちの考古学」は、愛知県内および近隣地域で活動する県・市町村教育委員会、公益財団法人、大学、特定非営利活動法人（NPO）、研究グループ、関連企業などが一堂に会して遺跡調査と考古学に関係する研究成果を広く一般に公開し情報を共有することを目的に、平成 24 年度より開催している。名古屋市博物館が会場となって４年目となる今回も継続参加者を含む多数の来場者で賑わった。

主　催：名古屋市博物館・愛知県埋蔵文化財センター

日　時：平成 29 年 12 月２日（土）午後１時から午後４時

12 月３日（日）午前 10 時から午後４時

会　場：名古屋市博物館　講堂・展示説明室

参加者数：12 月２日（土）162 名、12 月３日（日）232 名、合計 394 名

出展団体・個人：プレゼンテーション 11、ポスターセッション 16（エントリー制）

講　演：梶原義実（名古屋大学大学院人文学研究科准教授）

セッション：木村有作（名古屋市教育委員会）ほか３名

配布資料：『あいちの考古学 2017』450 部（無償配布）

◎ 12 月２日（土）午後１時から午後４時

＜プレゼンテーション＞

13:10 ～ 13:30「愛知県新城市萩平遺跡Ａ地点隣接地第５次調査の成果」社本有弥（愛知学院大学大学院）

13:30 ～ 13:50「縄文時代の長良川中・上流域における下呂石利用」山内良祐（名古屋大学大学院）

13:50 ～ 14:10「古城山窯跡第１次発掘調査報告」伊藤真央（愛知学院大学大学院）

14:40 ～ 15:00「平成 28 年度 畑間遺跡発掘調査成果報告」安津由香里（東海市教育委員会）

15:00 ～ 15:20「岐阜県富加町夕田地区前方後円形墳墓群の調査について」島田崇正（富加町教育委員会）

15:20 ～ 15:40「安城市桜井城の発掘調査成果」石井香代子（安城市教育委員会）

15:40 ～ 16:00「犬山焼の世界観」井上あゆこ（犬山市文化史料館）

◎ 12 月３日（日）午前 10 時から午後４時

＜プレゼンテーション＞

10:10 ～ 10:30「寝屋川市・高宮廃寺の宝物」白樫 淳（株式会社アコード）

10:30 ～ 10:50「栗栖プロジェクト成果報告～犬山市栗栖における地域協働の分布調査～」

大塚友恵（NPO 法人ニワ里ねっと）

11:10 ～ 11:30「北野田Ｂ遺跡の発掘調査成果報告」尾崎綾亮（愛知県埋蔵文化財調査センター）

11:30 ～ 11:50「国史跡久留倍官衙遺跡 (古代の朝明郡衙) の史跡整備」清水政宏（四日市市教育委員会）

＜講　演＞

13:00 ～ 14:00「古代寺院の成立と地域社会」梶原義実（名古屋大学）

＜セッション＞

14:00 ～ 14:10 趣旨説明　永井邦仁（愛知県埋蔵文化財センター）

14:10 ～ 14:30 基調報告１「尾張元興寺とその景観」 服部哲也（NPO 法人ニワ里ねっと）

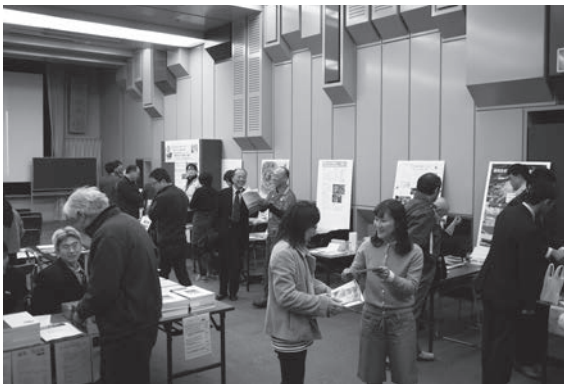
14:30 ～ 14:50 基調報告２ 「熱田台地の古代集落遺跡」木村有作（名古屋市教育委員会）

14:50 ～ 15:30 パネルディスカッション

＜ポスターセッション・出版物案内＞（12 月 2 日・3 日開催）

（1）「平成 29 年度 設楽地区の調査」愛知県埋蔵文化財センター
（2）「蒲郡市平古古墳・竹谷城古墳出土遺物の科学分析」松田 繁（蒲郡市博物館）ほか
（3）「地方における終末期古墳の墓域と周辺環境」植木萌（名古屋大学）
（4）「平成 28 年度畑間遺跡発掘調査成果報告」安津由香里（東海市教育委員会）
（5）「尾北窯出土須恵器の調査」大西 遼（愛知県陶磁美術館）
（6）「名古屋市内の民間発掘調査事例について」吉村 晶（株式会社イビソク）
（7）「遺物の分析調査―考古学・保存科学からの事例紹介―」須山貴史（株式会社イビソク）
（8）「遺物の分析調査―各種分析手法とその活用―」竹原弘展（株式会社パレオ・ラボ）
（9）「興道寺廃寺の発掘調査成果」松葉竜司（福井県美浜町教育委員会）
（10）「鈴鹿市国分町所在の三寺院について」吉田真由美（鈴鹿市考古博物館）
（11）「犬山焼の世界観―犬山焼と丹波焼・三田焼」
　　犬山焼ミュージアム（青木修 井上あゆこ 佐久間真子 中野耕司 鈴木智恵）
（12）「国史跡 久留倍官衙遺跡（古代の朝明郡衙）の史跡整備」清水政宏（四日市市教育委員会）
（13）「寝屋川市 高宮廃寺の宝物」白樫 淳（株式会社アコード）
（14）「近代庭園の調査と活用～旧林家住宅庭園の事例」久保禎子（一宮市尾西歴史民俗資料館）
（15）「栗栖プロジェクト成果報告～犬山市栗栖における地域協働の分布調査～」
　　大塚友恵（NPO 法人ニワ里ねっと）
（16）「森浩一文庫について」銅坂有紗（春日井市教育委員会）
（17）考古学フォーラム「考古学フォーラムのご案内」
（18）豊田市文化財課市史編さん室『新修 豊田市史』のご案内
（19）愛知県 県史編さん室『愛知県史』のご案内


▲講堂


▲ポスターセッション会場


▲ポスターセッション


▲設楽ダム関連遺跡の展示

V. 埋蔵文化財センターの活動

資料の貸出・提供

貸出先	目的	遺跡名	貸出・提出資料		期間
愛知県総務部長	「愛知県史　資料編５　考古５　鎌倉～江戸」の紹介のため。	名古屋城三の丸遺跡	第16 集　名古屋城三の丸遺跡II 写真図版3　写真 1 点	1 点	2017/5/12
株式会社古川弘文館	書籍「文明に抗した弥生の人びと」に利用のため。	牛牧遺跡	第95集　牛牧遺跡　出土石棒（1539）　写真 1 点	1 点	2017/5/16
一宮市博物館	夏休み期間催事「博物館で夏祭り！」に利用のため。		ツボ釣り道具　1式 一宮市関連ペーパークラフト　15点	16 点	2017/5/17
大府市歴史民俗資料館	平成 29 年度企画展「戦国あいちヒストリ」に利用のため。	大脇城遺跡 名古屋城三の丸遺跡 清洲城下町遺跡	第86 集　大脇城遺跡　086-002.jpg,086-013.jpg,086-014.jpg,KU-1190.jpg 第 97 集　大脇城遺跡 II　097-001.jpg 第 16 集　名古屋城三の丸遺跡　016-007.jpg 第 99 集　清洲城下町遺跡 VIII　099-004.jpg	7 点	2017/5/19
岐阜市歴史博物館	特別展「Gifu 信長展ーもてなし人　信長 !? 知られざる素顔ー」に利用のため。	石座神社遺跡	石座神社遺跡　出土　鉛製鉄砲玉写真 石座神社遺跡　出土　鉄砲玉出土地点写真	2 点	2017/5/29
小松市埋蔵文化財センター	夏季特別展「白山と原始のこまつびと～平地の民と山の民～」に利用のため。	朝日遺跡	朝日遺跡　出土遺物および遺構写真　12点 中期中葉全体図　1 点	13 点	2017/6/16
株式会社かみゆ	（「歴史 REAL　天下人の城」（出版元：洋泉社）に利用のため。	清洲城下町遺跡	清洲城下町遺跡　出土金箔瓦写真 (070-091.jpg,070-092.jpg)　2点	2 点	2017/6/20
西尾市教育委員会	企画展「新出土品展」に利用のため。	岡山南遺跡	岡山南遺跡 出土遺物 岡山南遺跡　発掘調査写真	13 点	2017/6/21
株式会社　洋泉社	「歴史 REAL　天下人の城」に利用のため。	清洲城下町遺跡	清洲城下町遺跡　出土金箔瓦写真 (099-182.jpg)	1 点	2017/6/21
公益財団法人徳川黎明会 徳川美術館	特別展「天下人の城 - 信長・秀吉・家康 -」に利用のため。	名古屋城三の丸遺跡 清洲城下町遺跡	名古屋城三の丸遺跡 V　図版 5-2　A 区 SD602(060-020.jpg) 清洲城下町遺跡　前期城下町復元図 清洲城下町遺跡　後期城下町復元図	3 点	2017/7/13
公益財団法人瀬戸市文化振興財団	企画展「遺跡からみた瀬戸焼の歴史」に利用のため。	朝日西遺跡	朝日西遺跡　図版 13　SD200・215 土層 (028-015) 図版 15　SD177 全景（２）(028-026) 図版 20　SD177 土師質皿出土状況 (S028-034) 図版 61　出土遺物　木製品（８）(zuhan61)	4 点	2017/8/1
鈴鹿市教育委員会	特別展「道でつながる古代の役所」に利用のため。	天神前遺跡 長野北浦遺跡・塔の越遺跡	天神前遺跡　写真図版 1　98B 区上面全体 (096-002.jpg) 写真図版 1　98C 区上面全体 (096-003.jpg) 長野北浦遺跡・塔の越遺跡　遺物写真 12　90C2-M-42(171-732.jpg) 遺物写真 12　80Cb-19(171-734.jpg) 遺物写真 13　90C1-54(171-747.jpg)	5 点	2017/8/1
株式会社天夢人	通信教育テキストに掲載のため。 株式会社ユーキャン「大人の学び直し日本史講座テキスト」2	朝日遺跡	朝日遺跡　環濠集落再現図	1 点	2017/8/7
株式会社かみゆ	書籍「戦国最強の城」　（発行元：プレジデント社　2017 年 9 月刊行予定）	清洲城下町遺跡	清洲城下町遺跡　出土金箔瓦写真 (099-182.jpg)	1 点	2017/8/21
ひまわりネットワーク 株式 会 社	歴史番組「刻の遺産」　「矢作川の鮎と人々のくらし」	朝日遺跡	030-080.jpg　[写真図版：50 上] 61E. ヤナ全景 030-251.jpg　[写真図版：50 中] 61E 区 ヤナ a　近景（南から） 034-002.jpg　[招待　P.10] ヤナの検出状況 138-iko00034.jpg [第 1 分冊 P.51] 写真 2-2-34　01Ad区 SX01 出土ヤナ状遺構	4 点	2017/8/21
安城市教育委員会	「安城発掘のあゆみ～郷土帰りした土器展 II ～」に利用のため。	下懸遺跡 姫下遺跡 惣作遺跡	第 144 集　下懸遺跡　図および写真　計 8 点 第 168 集　姫下遺跡　図および写真　計 38 点 第 172 集　惣作遺跡 II　図および写真　計 30 点	76 点	2017/9/8
滋賀県立安土城考古博物館	開館 25 周年記念　平成 29 年秋季特別展 『青銅の鐸と武器ー近江の弥生時代とその周辺ー』に利用のため。	朝日遺跡	朝日遺跡　遺物写真およびイラスト類	7 点	2017/9/8
株式会社黎明書房	書籍『「長篠・設楽原の戦い」鉄砲玉の謎を解く』に利用のため。	石岸遺跡 石座神社遺跡	石岸遺跡　　図　1点 石座神社遺跡　　図および写真　2点	3 点	2017/9/13
安城市教育委員会	「安城発掘のあゆみ～郷土帰りした土器展 II ～」に利用のため	下懸遺跡 惣作遺跡	下懸遺跡　写真および図　3点 惣作遺跡II　写真および図　7点	10 点	2017/10/3
株式会社雄山閣	書籍『三河国、ここにはじまる』（安城市教育委員会・土生田純之編集）に利用のため。	石座神社遺跡	石座神社遺跡　　写真（E-1055）189-554.jpg	1 点	2017/10/3
トーカイテック株式会社	岡崎市ケーブルテレビ 121ch チャンネル「おかざき」内市役所広報番組「市役所発→情報特急！」 岡崎まちものがたり／北野学区　に利用のため。	小針遺跡	第 136 集　小針遺跡　掲載資料	1 点	2017/11/6
安城市歴史博物館	市政施行６５周年記念特別展「発掘された日本列島 2017」でのパンフレット等刊行物への掲載に利用のため。	寄島遺跡 下懸遺跡 惣作遺跡 廻間遺跡	第 204 集　寄島遺跡　掲載写真（204-0180.jpg、204-1056.jpg）2点 第 144 集　下懸遺跡　掲載写真（144-170.jpg,144-208.jpg,144-209.jpg,144-222.jpg,144-224.jpg,144-225.jpg）6 点 第 172 集　惣作遺跡　掲載写真（172-288.jpg）1 点 第 10 集　廻間遺跡　掲載写真（E-117）1 点	10 点	2017/11/10
鈴鹿市教育委員会	企画展「焼きものの硯　石の硯」でのパンフレット等刊行物への掲載に利用のため。	清洲城下町遺跡 今町遺跡 下津北山遺跡 桑下城跡	第 27 集　清洲城下町遺跡 II （027-026.jpg）1点 第 53 集　清洲城下町遺跡 IV （053-387.jpg）1点 第 105 集　今町遺跡（105-050.jpg）1点 第 88 集　下津北山遺跡（088-043.jpg,088-044.jpg,088-047.jpg）　3 点 第 181 集　桑下城跡（181-144.jpg,181-148.jpg,181-152.jpg,181-157.jpg）4点	10 点	2017/11/30
可児市教育委員会	企画展「久々利銅鐸とは（仮）」でのパネル等への利用のため。	朝日遺跡	青銅器鋳造風景想像図	1 点	2017/12/5
個人	東京新聞及び中日新聞水曜日夕刊連載「かわいい古代」掲載のため。	朝日遺跡	朝日遺跡　04Ab 区 SD02　141 写真　1点 土器復元図　1点	2 点	2017/12/7
愛知県埋蔵文化財調査センター	愛知県埋蔵文化財調査センターのパンフレット作成のため。	志賀公園遺跡 名古屋城三の丸遺跡 鶯窯跡 西牧野遺跡 朝日遺跡 清洲城下町遺跡	志賀公園遺跡　SU11 出土遺物写真 090-177.jpg 名古屋城三の丸遺跡　色絵婦人座像写真 037-001.jpg 鶯窯跡　茶臼　上臼写真 109-1505.jpg 西牧野遺跡　ナイフ形石器写真 174-055.jpg 朝日遺跡　弥生土器写真 083-611.jpg 朝日遺跡　銅鐸写真 032-005.jpg 清洲城下町遺跡　金箔瓦写真 099-182.jpg	7 点	2017/12/8
愛知県総務部長	「愛知県史　通史編２　中世１」（書籍・CD-ROM）の作成のため。	下津宿遺跡 郷上遺跡 松河戸遺跡 鶯窯跡	下津宿遺跡　出土墨書土器写真 下津宿遺跡　出土鉄滓写真 下津宿遺跡　出土土師皿写真 郷上遺跡　調査区図面 郷上遺跡　井戸出土写真 松河戸遺跡　土坑墓写真 鶯窯跡　乾燥施設	7 点	2017/12/19
安城市教育委員会	市指定史跡「木戸城址」史跡説明看板作成のため。	木戸城遺跡・古新田遺跡	木戸城遺跡・古新田遺跡　図面２点　写真２点	4 点	2017/12/20
鈴鹿市教育委員会	企画展「焼きものの硯　石の硯」でのパンフレット等刊行物への掲載に利用のため。	瓶子窯跡	瓶子窯跡　陶硯　（135-294.jpg）	1 点	2017/12/21
愛知県教育委員会 生涯学習課文化財保護室	史跡貝殻山貝塚　史跡整備設計資料として使用するため。	朝日遺跡	朝日遺跡　95年度調査区　6×7カラーポジフィルム　14点	14 点	2017/12/22
株式会社アッシュ	「地図で楽しむすごい愛知」（洋泉社刊行）に使用するため。	朝日遺跡	朝日遺跡　[カラー図版：19] 89B 区上面遺構群（030-007.jpg） 朝日遺跡　[報 V　カラー 35] 器台にのったパレス壺（034-034.jpg）	2 点	2018/1/9
可児市教育委員会	「可児市のじまんとほこり」（可児市・可児市教育委員会出版）に使用するため	朝日遺跡	青銅器鋳造風景想像図	1 点	2018/1/17
愛知県埋蔵文化財調査センター	愛知県埋蔵文化財調査センターのパンフレット作成のため。	夏敷古窯跡・蛇廻間古窯跡	掲載写真　[写真 27　] 遺物写真（10）_ 山茶碗（152 – 152.jpg）	1 点	2018/1/19
弥富市歴史民俗資料館	書籍「佐屋路」に使用するため。	朝日遺跡	平成 16 年度（2004）埋蔵文化財展「弥生水都　二千年」　リーフレット　朝日遺跡関連写真　083-609.jpg	1 点	2018/1/26

合計　34件　233　点

ホームページ

公開ファイル

報告書PDF	259件
説明会資料	69件
年報PDF	287件
研究紀要PDF	127件
その他チラシ類	44件
設楽通信などPDF	69件
遺跡位置登録	256件
遺跡アルバム	41,139点
図書室公開データ	10,154点

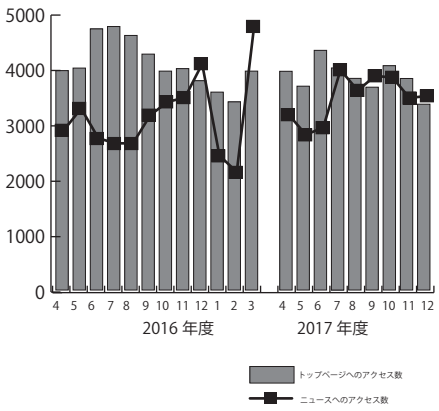
新規刊行報告書のPDFを追加。愛知県埋蔵文化財調査センター内の図書室データに関して、公開ホームページ上で検索できるサイトを開設した。遺跡アルバムでは、掲載写真の充実を図るとともに、一部の遺物実測図についても掲載を開始した。

図書室のデータ公開について

愛知県埋蔵文化財調査センターに保管されている書籍について、一般への貸出は実施していないが、閲覧は可能である。また、電話やファックスによる問い合わせも増加していたことから、2016年11月より、一部の書籍データについて、web上で検索できるようにスクリプトやデータの整理を行なった。現在の登録データ数は10,154点。

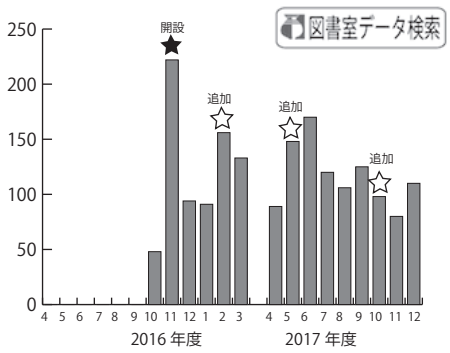
各コンテンツのアクセス数について

昨年度からの各コンテンツのアクセス数を以下に示す。



▲トップページとニュース

トップページへのアクセス数とニュースサイトへのアクセス数がほぼ一致した。共に3,500ヒット程度を維持している。2016年度は、夏に埋蔵文化財展を外部機関と共催したため、トップページのアクセス数が増加したと思われる。今年度は、常設展のリニューアルにあわせ、各種のイベントを秋に行った。またイベントなどの告知が、ニュースサイトのアクセス数の増加につながったと思われる。



▲図書室データ検索サイト

図書室のデータ検索サイトは、2016年11月に図書室利用の利便性を増すために開設した。開設から今年度10月までに３回のデータ更新を行った。データの追加の告知に合わせ、アクセ数が増加する傾向が見られたが、10月の追加では、大きな増加は認められなかった。

地元説明会・遺跡報告会

遺跡名	所在地	開催日	参加人数
マサノ沢遺跡	設楽町小松	平成29年10月28日（土）	20名　地元説明会(雨天により遺物等の展示)
大畑遺跡	設楽町川向	平成29年11月18日（土）	17名　地元説明会(雨天により遺物等の展示)
普門寺旧境内	豊橋市雲谷町	平成29年12月2日（土）	210名「普門寺ウォーク」に合わせた説明会
マサノ沢遺跡	設楽町小松	平成30年3月3日（土）	（於 設楽町特産物振興センター）　成果報告会
大畑遺跡	設楽町川向	平成30年3月3日（土）	（於 設楽町特産物振興センター）　成果報告会
西地・東地遺跡(整理)	設楽町大名倉	平成30年3月3日（土）	（於 設楽町特産物振興センター）　成果報告会

報告書作成のための指導

遺跡名	指導日	指導者	所　属
西地・東地遺跡	平成29年11月30日（木）	千葉　豊	京都大学文化財総合研究センター教授
		長田友也	中部大学非常勤講師
		石井　寛	元横浜市教育委員会
	平成30年1月23日（火）	大塚達朗	南山大学人文学部教授
	平成30年1月29日（月）	増子康眞	名古屋考古学会
岡山南遺跡	平成29年12月26日（火）	城ケ谷和広	愛知県立昭和高等学校校長
宮下・下懸・五反田・惣作遺跡	平成29年12月27日（水）	城ヶ谷和広	愛知県立昭和高等学校校長

発掘調査現場における遺構・遺物などの指導

遺跡名	指導日	指導者	所　属
マサノ沢遺跡	平成29年10月24日（火）	前田清彦	豊川市教育委員会生涯学習課課長
	平成29年11月21日（火）	馬場保之	飯田市教育委員会
大畑遺跡	平成29年11月17日（金）	綿田弘実	長野県埋蔵文化財センター課長補佐
	平成29年12月5日（火）	増子康眞	名古屋考古学会
	平成30年3月３日（土）	平野吾郎	磐田市文化財保護審議会会長

北設楽郡教員会　社会科教育研究部会研修

遺跡名	開催日	参加人数
大畑遺跡・マサノ沢遺跡	平成29年8月9日（水）	小中学校社会科教員11名

体験発掘と遺跡見学

遺跡名	開催日	参加人数
マサノ沢遺跡	平成29年10月10日（火）	北設楽郡設楽町立田口小学校６年生９名（引率教員２名）
マサノ沢遺跡	平成29年10月30日（月）	北設楽郡設楽町立名倉小学校６年生５名（引率教員２名）

その他普及事業

家族の絆づくり事業「レッツ発掘体験と温泉」

主催：(公財) 愛知県教育・スポーツ振興財団
共催：中日新聞社、(株) 旭高原、(有) ささゆり
主管：愛知県旭高原少年自然の家、愛知県埋蔵文化財センター
後援：愛知県教育委員会、豊田市教育委員会
日時：平成29年10月28日 (土) ～29日 (日) 1泊2日
対象：小学生以上の子供とその家族
参加者：11家族 (37名)

10月28日
- 12:30　現地集合
- 13:00～16:00「発掘体験」
- 旭高原少年自然の家に移動
- 17:30　夕食
- 19:00～20:30「みんなでドッジボール大会」

10月29日
- 7:30　朝食
- くしはら温泉に移動
- 10:00～11:00「マレットゴルフ」
- 「ささゆりの湯入浴タイム」後
- 12:00昼食
- 13:00解散

このうち「発掘体験」を愛知県埋蔵文化財センターが主管
日時：平成29年10月28日 (土) 午後1時～午後4時
内容：台風22号の影響により当初予定したマサノ沢遺跡での発掘体験そのものは中止とし、下記の代替プログラムを実施した。
- 13:00　はじめましての会
- 13:30　マサノ沢遺跡の発掘調査の概要説明とマサノ沢遺跡出土遺物の見学：マサノ沢遺跡 (設楽町字小松)
- 14:30　マサノ沢遺跡出土遺物の洗浄体験と土器の拓本採取体験：万瀬休憩所 (設楽町字川向)

採取した拓本をパウチした記念品のほかに、遺跡調査のしおりやペーパークラフトなどを配布した。


▲担当者より遺跡についての説明


▲遺物洗浄体験


▲遺跡から出土した縄文土器の見学


▲拓本体験

発掘された岡崎の遺跡

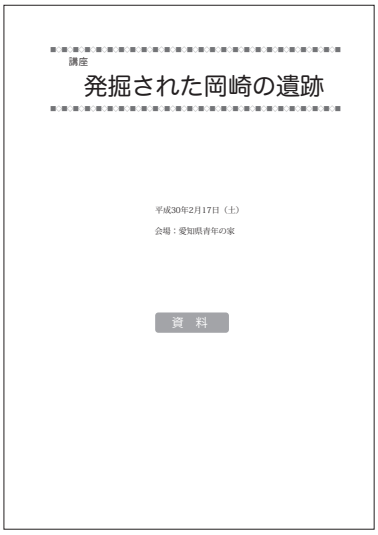
目的：岡崎市内の発掘調査の成果について、岡崎市教育委員会と共催で報告会を開催した。
実施日：2月17日（土）　午後1時から16時5分
会場：愛知県青年の家（岡崎市見合町並松1-2）
内容：

開会日の１ヶ月前より、会場の青年の家に遺跡の概要を記したパネルを展示した。また岡崎市教育委員会より、市の市政だよりに開催予告の告知を掲載した。開催日当日は、24ページの資料集を配布。岡崎市内の５遺跡についての調査成果の報告と研究結果の報告を行い、各遺跡の遺物も展示した。報告の内容は以下に示す。また、受付時間及び休憩時間中に、岡崎市教育委員会視聴覚ライブラリー作成の「岡崎城　～新しい発見をもとに、歴史をたどる～」を放映した。参加者は120名。

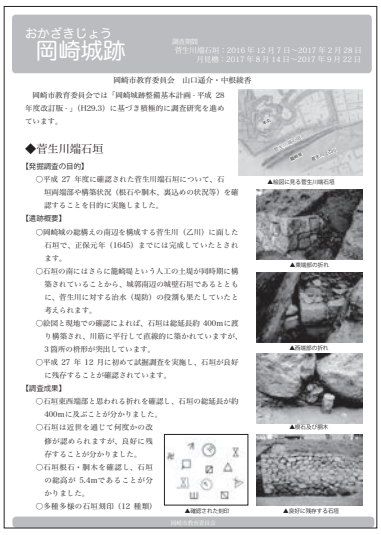
西牧野遺跡（樫山町・牧平町）	酒井俊彦・成瀬友弘（愛知県埋蔵文化財調査センター）
八畝畑遺跡（正名町）	松田　訓・宮腰健司
車塚遺跡（岩津町）	池本正明・鈴木恵介
滝町古窯（滝町）	武部真木
岡崎城跡（康生町）	中根綾香（岡崎市教育委員会）


▲会場風景


▲遺物展示


講座
発掘された岡崎の遺跡
平成30年2月17日（土）
会場：愛知県青年の家
資　料
▲資料表紙


くるまづか
車塚遺跡
愛知県埋蔵文化財センター　池本正明・鈴木恵介
▲遺跡概要パネル


おかざきじょう
岡崎城跡
岡崎市教育委員会　山口遥介・中根綾香
◆菅生川端石垣
▲遺跡概要パネル

平成29年度　愛知県埋蔵文化財センター　組織一覧

運営協議会委員

足立　守	名古屋大学 PhD 登龍門推進室特任教授
稲葉伸道	名古屋大学名誉教授
加藤安信	元学校法人大同学園顧問
高妻洋成	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所 埋蔵文化財センター長
都築暢也	中京大学客員教授
橋本礼子	愛知県教育委員会生涯学習スポーツ監
藤澤良祐	愛知学院大学教授
松永裕和	愛知県都市教育長協議会会長 あま市教育長

専門委員

発掘調査	赤塚次郎	元愛知県埋蔵文化財センター職員
発掘調査	石黒立人	元愛知県埋蔵文化財センター職員
考古学	伊藤秋男	南山大学名誉教授
地理学	海津正倫	奈良大学教授
発掘調査	小澤一弘	元愛知県埋蔵文化財センター職員
保存科学	高妻洋成	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所 埋蔵文化財センター長
考古学	柴垣勇夫	元愛知淑徳大学教授
岩石学	諏訪兼位	名古屋大学名誉教授
形質人類学	多賀谷　昭	長野県看護大学特任教授・名誉教授
文献史学	福岡猛志	日本福祉大学名誉教授
建築史学	麓　和善	名古屋工業大学大学院教授
木材組織学	吉田正人	名古屋大学准教授
考古学 動物学 植物学	渡辺　誠	名古屋大学名誉教授

センター長　松原邦夫

副センター長　宮腰健司

管理課

管理課長	吉田和義
主　査	船橋孝彰
主　事	榊原聡史
主　事	飯尾有里

調査課

調査課長	池本正明
主任専門員	酒井俊彦　鈴木正貴
調査研究専門員	樋上　昇　堀木真美子 永井宏幸　鬼頭　剛 武部真木　蔭山誠一 川添和暁　早野浩二 永井邦仁
調査研究主任	松田　訓
調査研究主事	鈴木恵介

年報　平成29年度

平成30年3月
編集・発行　(公財) 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
印　刷　新日本法規出版株式会社